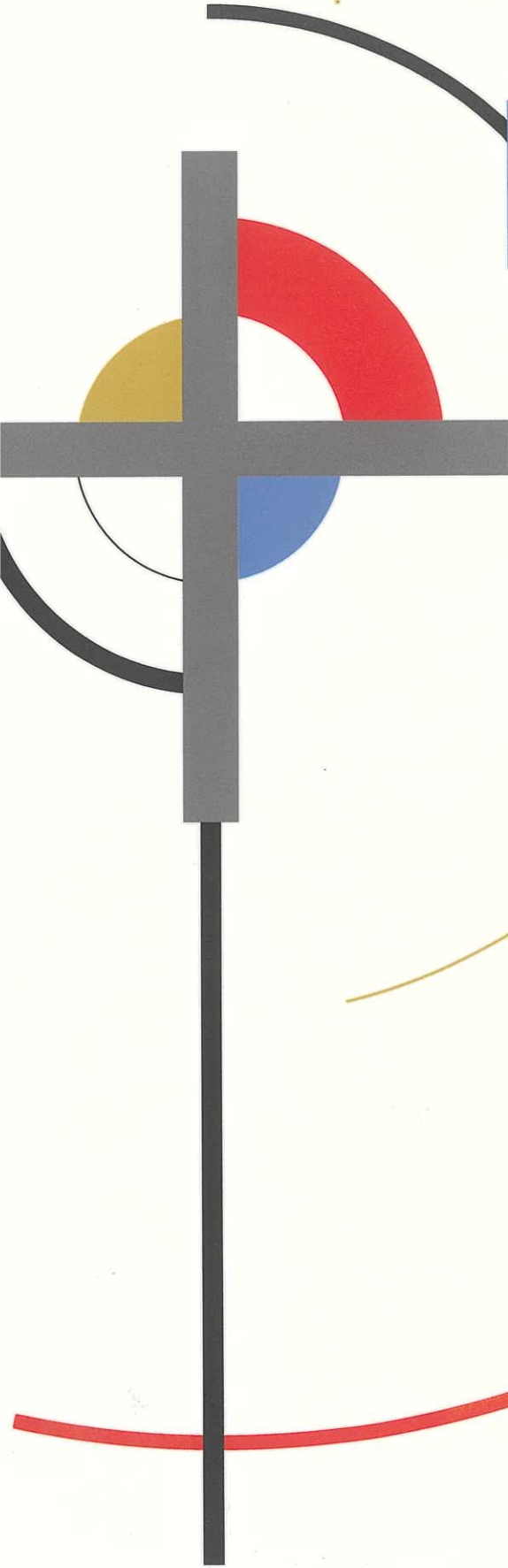
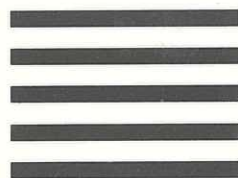




K・A・P くまもと国際建築展
くまもとアートポリス'92



総合記録
COLLECTION

KUMAMOTO ARTPOLIS '92

総合記録
COLLECTION

発刊にあたって

福島 譲 二

くまもとアートポリス'92実行委員会会長／熊本県知事



後世に残し得るような優れた建造物を造り、質の高い生活環境を創造するとともに、地域文化の向上を図るために進めてきた「くまもとアートポリス」の成果を国の内外に発表するため、くまもと国際建築展「くまもとアートポリス'92」を、平成4年11月を中心に開催いたしました。今回の催しは、アートポリス参加作品はもとより、熊本の長い歴史の中で蓄積されてきた建造物や、県内各地で進められているまちづくり等の成果を紹介するとともに、21世紀に向けた地域文化の創造に新しい視野を拓こうとするものであり、実行委員会が主催する「見学会」、「展覧会」、「シンポジウム」、「まちなみ展」の4つのイベントと、市町村及び関係団体による協賛事業など、県内各地で多彩なイベントが開催されました。

見学会では、アートポリス事業によって完成した28の建造物と、県内の優れた既存の建造物を実際に見ていただき、また、展覧会では、アートポリスの全容のほか、アートポリスと同様なまちづくりを行っている国の内外の事例等も紹介いたしました。ヨーロッパの8都市から行政関係者や建築家を招いて開催した都市デザインサミットでは、まちづくりや都市デザイン等に対する活発な論議が展開されました。さらに、熊本市、八代市、小国町で開催された地元の皆様方の手作りのまちなみ展や、関係団体等の主催により、「くまもとアートポリス'92」に協賛したまちづくりに関する様々なイベントが行われました。これらのイベントを通じ、県民の皆様方のま

ちづくりに対する関心の高さを感じました。

大変長丁場のイベントでありましたが、全国的にも初めての取組みとして注目を集め、県の内外から約17万6千人という大勢の方々にご参加いただき、熊本に強い印象を持っていただくことができたと考えております。また、いろいろな方面に大変大きな反響を呼び、様々な議論が重ねられるとともに、アートポリスに対するいろいろなご提言もいただき、誠に実り多い建築展であったと思います。

これだけ大きなイベントを長期間にわたって開催でき、また、成功裡に終了することができたのは、県民の皆様方をはじめ、関係機関及び関係団体のご協力はもとより、準備運営に参加いただきました関係者の方々のご協力の賜物と心から感謝申し上げます。

「くまもとアートポリス」のような文化運動は、長期間継続してこそ、その成果が現れるものであります。今後とも、県民の皆様方のご理解とご協力をいただきながら、さらなる展開を図っていきたいと考えておりますのでよろしくお願い申し上げます。

この報告書が、単なる記録誌となるのではなく、まちづくりに興味をお持ちの多くの方々に読んでいただき、まちづくりを進めていくうえでのご参考になればと願っております。

平成5年3月

C O N T E N T S

第1章

くまもとアートポリス

参加プロジェクト
くまもとアートポリス'92選定既存建造物

第2章

くまもと国際建築展「くまもとアートポリス'92」

見学会
展覧会
シンポジウム
都市デザインサミット
アートポリスフォーラム
まちなみ展
熊本まちなみ展
八代まちなみ展
小国まちなみ展
関連事業

第3章

アートポリスとまちづくり

第4章

総 括

参考資料

K・A・P

第1章

くまもとアートポリス

くまもとアートポリス

いま私たちは、人々の絶え間ない努力によって
もたらされた物質的には恵まれた時代の中で、
物の豊かさだけでなく心の豊かさも求めています。

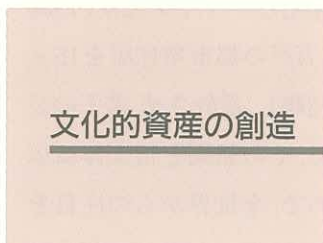
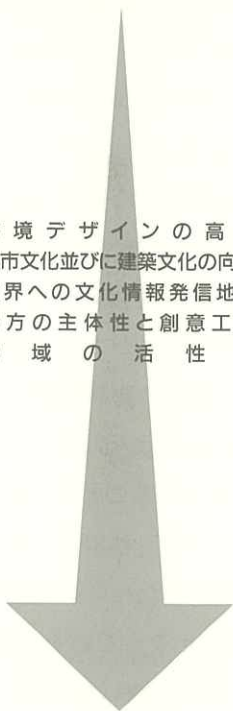
熊本県では、こうした中であって、文化の香り高い
魅力ある地域づくりを進めており、建築文化
をとおしてこのような地域づくりに貢献できる
のではないかと考え、「くまもとアートポリス」
構想が始まりました。

この構想は、人々の環境デザインに対する関心
を高め、都市文化並びに建築文化の向上を図る
とともに、世界への文化情報の発信地「熊本」を
目指すものであり、そのために、国際的なまたは
前途有望な建築家・デザイナーの才能・アイデ
アを結集し、後世に残る文化的資産としての建
造物を創っていかうというものです。

この構想は、全国初の試みであり、熊本独自の個
性的で魅力ある文化の創造に大きく役立つこと
と考えています。



環境デザインの高揚
都市文化並びに建築文化の向上
世界への文化情報発信地に
地方の主体性と創意工夫
地域の活性化



文化的資産の創造



企画・広報

企画運営

- 環境デザインからのまちづくりの企画、提案
- 参加プロジェクトの企画、提案
- 関連するまちづくり計画との連携

広報普及

- 報道機関等を通じての広報
- ポスター、パンフレット、ニュース等の発行
- 諸団体への協力要請



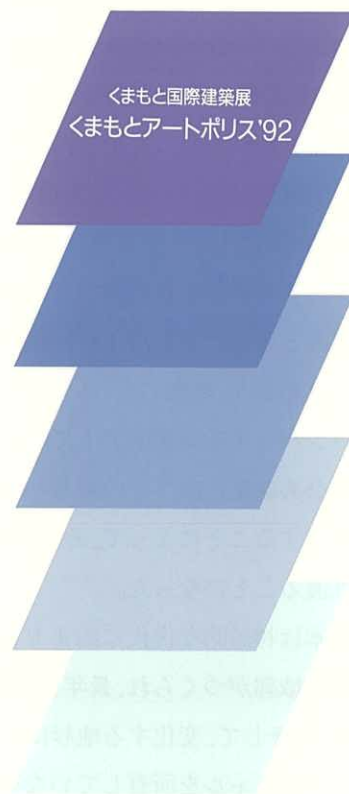
参加
プロジェクト

建築物、橋、公園等の都市施設や
まちづくり構想といった環境デザ
インを構成する構造物や計画など
で、単体としての質の向上を図る
だけでなく、連なりとしての「線」、
広がりとしての「面」への発展が
期待できるもの



イベント

- 国際シンポジウム
- 講演会
- 展覧会
- 関連するイベント等
- 他の事業との連携



くまもと国際建築展
くまもとアートポリス'92



文化の薫り高い
魅力ある
“くまもと”づくり

国際的評価を受ける環境へ

磯崎 新 くまもとアートポリスコミッショナー／建築家



熊本という名前が、世界中の建築家達にどれだけ知られているだろうか。クロサワの「影武者」のひとつのシーンのロケに現れるよ、といっても、実はそれは他国の物語である。阿蘇の広大な光景と「火の国」の神話が結びついていて、訪れることのできた人達だけしか記憶にとどめていない。クラコフ、ストラスブルグ、エディンバラといった比較的小さい街が、その歴史の厚みとともに生みだされた建物や町並によって人々を誘う。歴史の乏しいアメリカの小都市コロンバス・インディアナでさえ、街に建てられる公共建築に数多くの新しい、若い建築家達を登用することによって、その名前が世界中に知れ渡ることになった。

熊本は神話的な古代に始まり、近世にはすばらしい城郭がつくれ、長年九州の文化的中心であり、そして、変化する地形によって景観形成のポテンシャルを所有していながら、いまひとつ魅力に欠けるところがある。それは日本の近代化の過程でいずれの街もが共通に陥った運命でもあるが、通俗的で平均的な建物で機械的に割りつけられた街路を埋めてしまったためである。日本の街は、なぜか20年ぐらいで更新されている。それは木造がその程度の耐用年限しかないと理由づけられてきたのだが、鉄やコンクリー

トを構造体にするようになって、このサイクルはほとんど変わらないことが、戦後の変遷をみると分かってきた。戦後のバラックがオリンピック前後にいちど建て替えられ、いまそれが再度、再開発のプログラムに乗り始めた。必ずしも物理的な耐用年限だけによるものではなく、いまでは機能の改変が大きい要因になっている。そのためには、新しいデザインも必要とされる。熊本県が「くまもとアートポリス」を提唱するには、それだけの時代背景からの理由があると思われる。日本の都市の戦後二度目の更新の動きを積極的に生かして、他の都市にはみられないユニークなアートポリスに仕立てる可能性は充分にあると考えられるので、私はこの企画の推進、建築家の選定作業にあたっての情報提供などのお手伝いをしようと考えている。この企画には類似した先例がある。それは1987年に催された西ベルリンの「国際建築展(IBA)」で、これは主として公営住宅のデザインだが、1980年よりの7年間で、1万戸の都市型住居を15ヶ国、200人の建築家を招聘し、設計させ、若干の公共建築の建設も含めて、その結果を街全体に広がる建築展としたもので、全世界からの注目を浴びた。同時に、ここでは都市を再建する哲学とでもいえるべき思想が組立てられ、都心に密集し

て住みながら、伝統的な街区を構成する手法が探求された。

「くまもとアートポリス」では、IBAの思想に学ぶことは必要であるが、それを模倣する意味はない。日本の都市は西欧の都市と成り立ちが異なる。街区よりも街路が、それよりも点景となる建物が重視され、広大な公園よりも、細かく分散した庭園の方が好まれてきた。そのような相違を理解したうえで、最終的には珠玉のような建築物やデザインされた都市施設の綾織りのような街や田園風景が出現するのが目標とされることになるだろうが、何よりもまず、その綾織りの一部を構成する建築作品を生み出す手段が慎重に考えられねばならない。いい建築作品が生まれるには二つの側面が同時に働いてくれねばならない。第一には発注者が、世界でも希有なアートポリスを県民の手によって生み出すという意図を十分に理解して、相応の配慮をなすことである。公共建築物の発注には、これまで長年に亘って、数々のルーチンが積み上げられている。ほおっておくと、代わり映えしない建物が自動的にでき上がる仕組みになっている。だが公共建築でさえ、いい建築デザインがなされた先例がいくつもあるから、そのルーチンを変えていくことは無理ではないはずである。担当者のやる気次第でさえある。

この企画には、民間の建築の発注者もぜひ参加していただきたいと考えている。街の景観を構成するうえでは、その量のほうが圧倒的に多いからである。その企画のなかに、際立った都市構

成上の配慮や突出したデザイン的な解法が組み込まれるようになって、初めて街の綾織りは完成する。

第二点としては、その個々の建物や施設を設計し、デザインする建築家やデザイナーの選ばれる方と参加の体制を組み立てることである。いま、関係者が共通して考えているのは、この「くまもとアートポリス」を国際的に注目される企画に仕上げることである。そのためには、世界的に評価を得るような建築やデザインが誕生しなければならない。当然のことながら、建築家やデザイナーは国際的に招聘されることになろう。同時に地元を含めて、日本中から国際的評価を受ける可能性のある仕事をする人々も選ばれるべきである。そして私が何よりも期待するのは、地元在住の建築家の協力である。実際の建設はこの人々を外してはあり得ない。

具体的には、コミッショナーは担当する建築家を推薦する役割を負っているが、勿論、最終的には関係の諸機関と協議のうえで決定される。その過程を経るわけだが、私は「くまもとアートポリス」を国際的に成功させるために、90年代の世界の建築界の動向を見据えながら、必ずしも評判やスタイルにこだわらずに推薦したいと考えている。異なった国籍や様式や方法が渾然としてひとつに織り合わされていったときに初めて、街の景観も世界的な注目を浴びると信じているからである。

(くまもとアートポリスパフレットより)

くまもとアートポリスと 熊本の街づくり

堀内 清治 くまもとアートポリスアドバイザー／熊本工業大学教授



我々は今、日本の歴史始まって以来とも言うべき繁栄の時代に生きている。お陰で、熊本でも道路やビル工事の見られない日はない。その一つ一つは目立たなくても、熊本の街並みは着実に日一日と変わりつつある。熊本も城下町建設の時代から四百年たって再び大建設の時代を迎えたと言えるかも知れない。県も市も、この機運をとらえて美しい活力ある街づくりを実現するために懸命の努力を払っているが、願わくば、我々も覚悟を新たにして四百年前の御先祖に笑われないような街づくりに協力したいものである。人間の歴史をふり返ってみると、どの文明にもこのような繁栄の時期があった。それぞれの文明を代表するような立派な建築はその時に集中的に造られたものである。過去には、ヒッタイト帝国のように、長い間歴史から忘れ去られ、近代の発掘調査によって蘇った文明もあった。そのような文明が我々の共感を呼ぶのは、主として発掘された建築のお陰である。建築に示された知恵や腕前は、それを造った人々の文化を何よりも雄弁に教えてくれる。逆に、フェニキアのように、歴史上は有名であっても立派な建築を残さなかった文明からは、曖昧な情報しか我々に

伝わらないので、彼等のことを商売上手だけが取り柄の、古代のエコノミックアニマルのように思ってしまう。

絵や彫刻は嫌なら見ないで済ますこともできるが、建築や街並みはそういうわけにいかない。良きにつけ悪しきにつけ、多くの人々に長年にわたって影響を与え続けるものであって、その町の文化をこれ程具体的に示しているものはない。まちに建つ様々な建物の中で、時代が変わっても、極端な場合には国が亡んでも生き残ってゆくような建物はモニュメント（歴史的建造物）と呼んでどここの国でも大切にしている。熊本にも熊本城や赤煉瓦の裁判所など多くのモニュメントがある。長い年月慣れ親しんだ建物はやがて人々の夢や理想を育てるシンボルとなっている。モニュメントとなる建物は、城でも裁判所でも学校でも、建物の種類は問わないが、法隆寺のように、多年の風雪に耐えて建ち続ける永続性と、他には類を見ない独創性と、品位が問題であった。今我々は、昔の権力に代わる民主的な方法でモニュメントを造ることができるのだろうか。残念ながら、今の日本には公共施設でさえ、良いものをしっかり造るというより、安く早く無難に

造りたいという傾向が定着しようとしているように思われてならない。安く無難に造るとすれば、規格や前例に従っていつもの手慣れたやり方が良いということになる。これは一見結構なことのように見えるかも知れない。然しそれは、本来なら英知の輝きになったかも知れない建築を単なる耐久消費材にすりかえてしまうばかりでなく、手垢のついたカタログや他人の仕事を便利にコピーしていれば、やがて創作の氣力を失い、遂には地方が文化の創造から脱落してしまうことにつながっている。これはいつの間にか我々の周りに広がってしまった現代の迷路である。熊本県が企画しているアートポリス計画は、世界の英知を熊本の街づくりに結集し、良い建築を熊本に造ろうという極めて文化的かつ英雄的な事業であるが、このような計画は今の日本では、現代の迷路からの、出口の模索という一面を持たざるを得ないだろう。従って実行の過程では色々の問題が起こり得る。理念と現実が矛盾することも起こるかも知れない。然し、衆知を集めてそれらを一つ一つ克服することが熊本の歴史的伝統に相応しい知的蓄積である。このような蓄積の上に立って、熊本がやがては創造

的な文化都市として21世紀に向けて新しいエネルギーを放射するに至る事を願わずにいられない。

(くまもとアートポリスパンフレットより)

参加プロジェクト

参加プロジェクトは、「くまもとアートポリス」として、優れた建造物を創ろうというものです。それは景観・まちなみへの配慮を十分ににした建築物等を創出し、デザインの質の高さ・違いを人々に示すことによって、その重要性を訴えることができるという考えによるものです。

そのため、景観・デザインへの配慮を行うべき建築物等を参加プロジェクトとして取り上げ、適性と能力を兼ね備えた設計者をコミッショナーに推薦していただき、真にデザインに配慮した施設を建設することとしました。

これらの建築物のデザインは、「将来」の景観・まちなみを意識したものであって、刺激的であることも予想されます。その場合には建築物について、人々から議論百出することが考えられます。しかし、この議論もまた人々の意識の高揚につながり、さらには、建築物に対する目を養うことにつながると考えています。

参加プロジェクトの推進において、コミッショナーは設計・デザインには関与せず、どの人がふさわしいかを推薦するだけです。デザイン等はそれぞれの建築家・デザイナーが各人の責任において進めます。

「くまもとアートポリス」においては、設計・デザインの価値を認め、著作権を確保することが、

質の高い建築を生み出すために不可欠であると考えています。

そこで、「最もふさわしい人に委託する」との考えから、「安い人に」という入札によるのではなく、推薦された建築家と随意契約を行うこととしていますし、工事においても、設計者の工事監理が必要不可欠なものと考えています。

また、設計期間や委託料についても基準を定めて良好な設計環境を確保したいと考えていますし、同様な考えから、対外的には設計者名を付して発表することとしています。

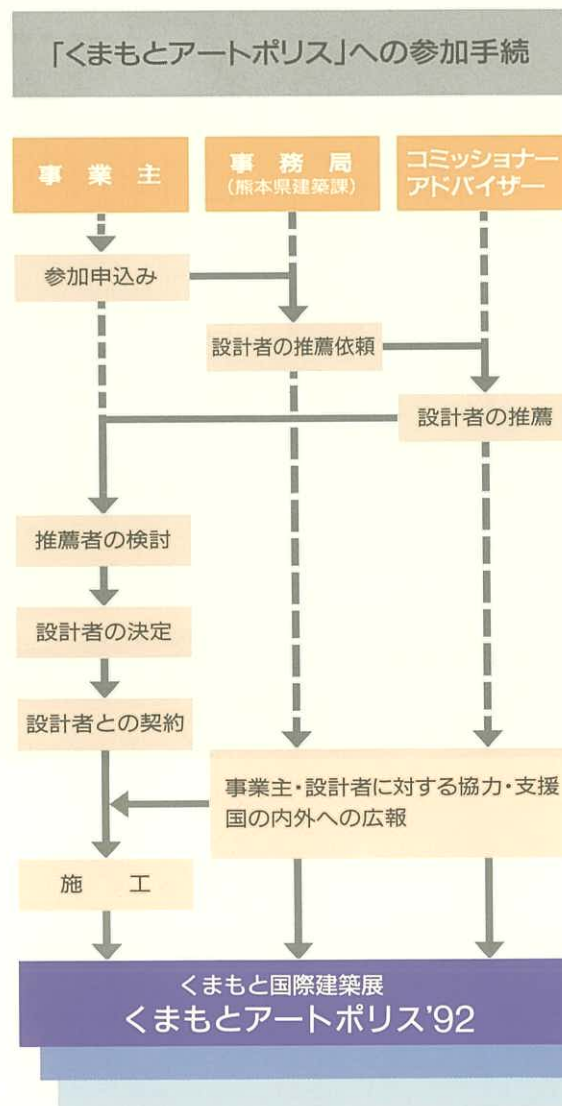
1992年12月現在、参加プロジェクトは42件にのぼり、28件が完成または一部完成となっています。

これらは、県下全域から見れば点的なものにすぎませんが、それらからにじみでる景観への、環境デザインへの配慮は人々の意識を喚起し、それぞれが周囲に波及効果を及ぼし、点から線へ、線から面へと広がっていくことにより、最終的には、珠玉のような建築物やデザインされた諸施設の綾織りのような街や田園風景が出現するものと期待しています。



参加プロジェクト対象要件

- まちなみに大きな影響を与えるもの
- 自然景観に特に配慮が必要なもの
- 観光・リゾート地域として、一体的に整備を図る必要のあるもの
- 住宅団地等の街区的規模で配慮が必要なもの
- その他特に景観の形成に配慮を要するもの





熊本北警察署
篠原一男+太宏設計事務所



県立美術館分館

エリアス・トーレス+ホセ・アントニオ・マルチネス・ラペーニャ+大和設計



熊本市花畑パークトイレ
大塚豊一



白川橋景観整備
藤江和子



再春館レディースレジデンス
妹島和世



県営竜蛇平団地
元倉真琴



熊本市営託麻団地

坂本一成＋長谷川逸子＋松永安光





県営保田窪第一団地
山本理顕



県営帯山A団地
新納至門



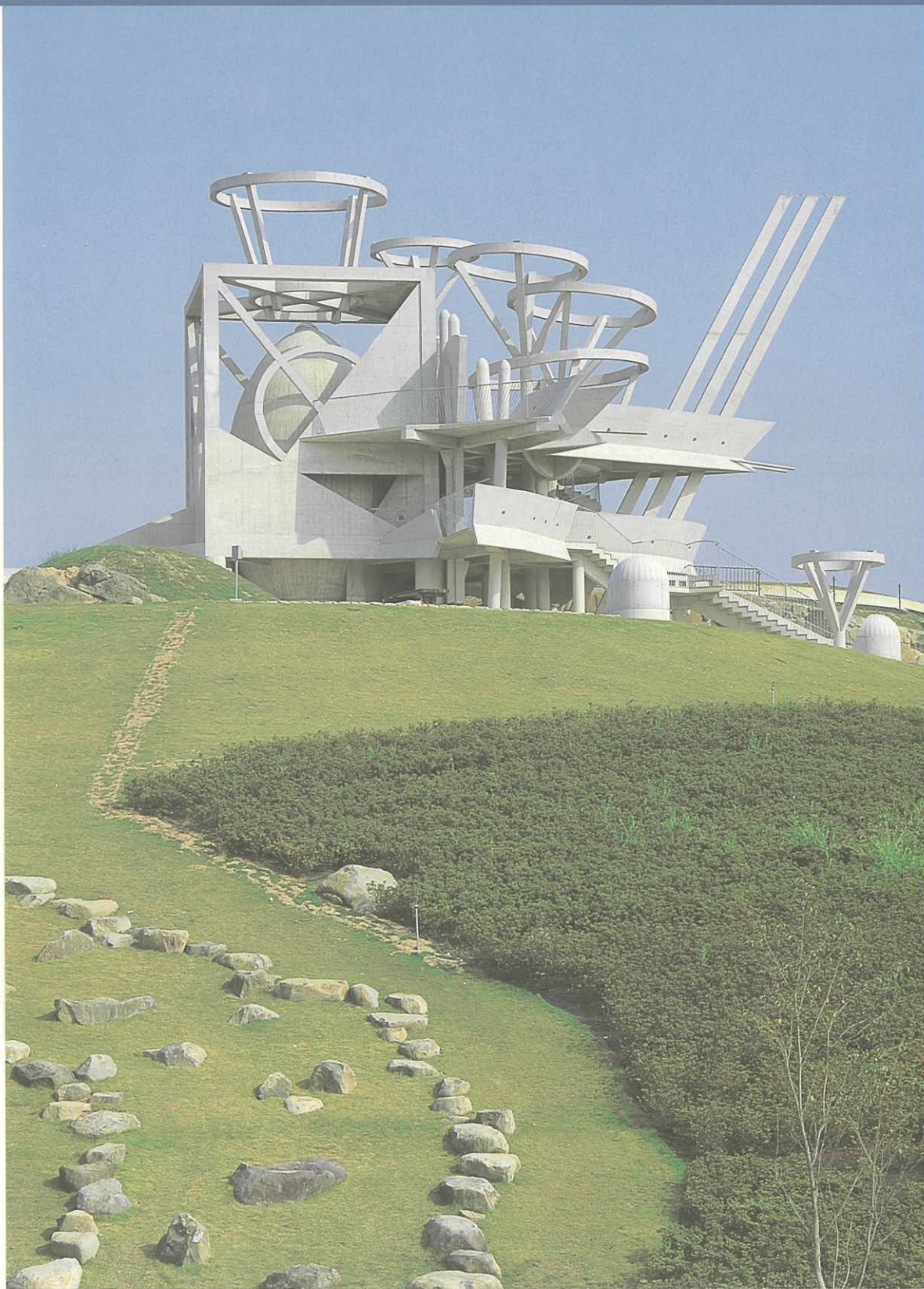
熊本市上江津湖畔トイレ
日田 兆



熊本市営新地団地 A
早川邦彦



熊本市営新地団地 B
緒方理一郎



玉名天望館
高崎正治



県立装飾古墳館
安藤忠雄



草地畜産研究所畜舎

トム・ヘネガン+インガ・ダグフィンスドッター+ 桜樹会・古川建築事務所



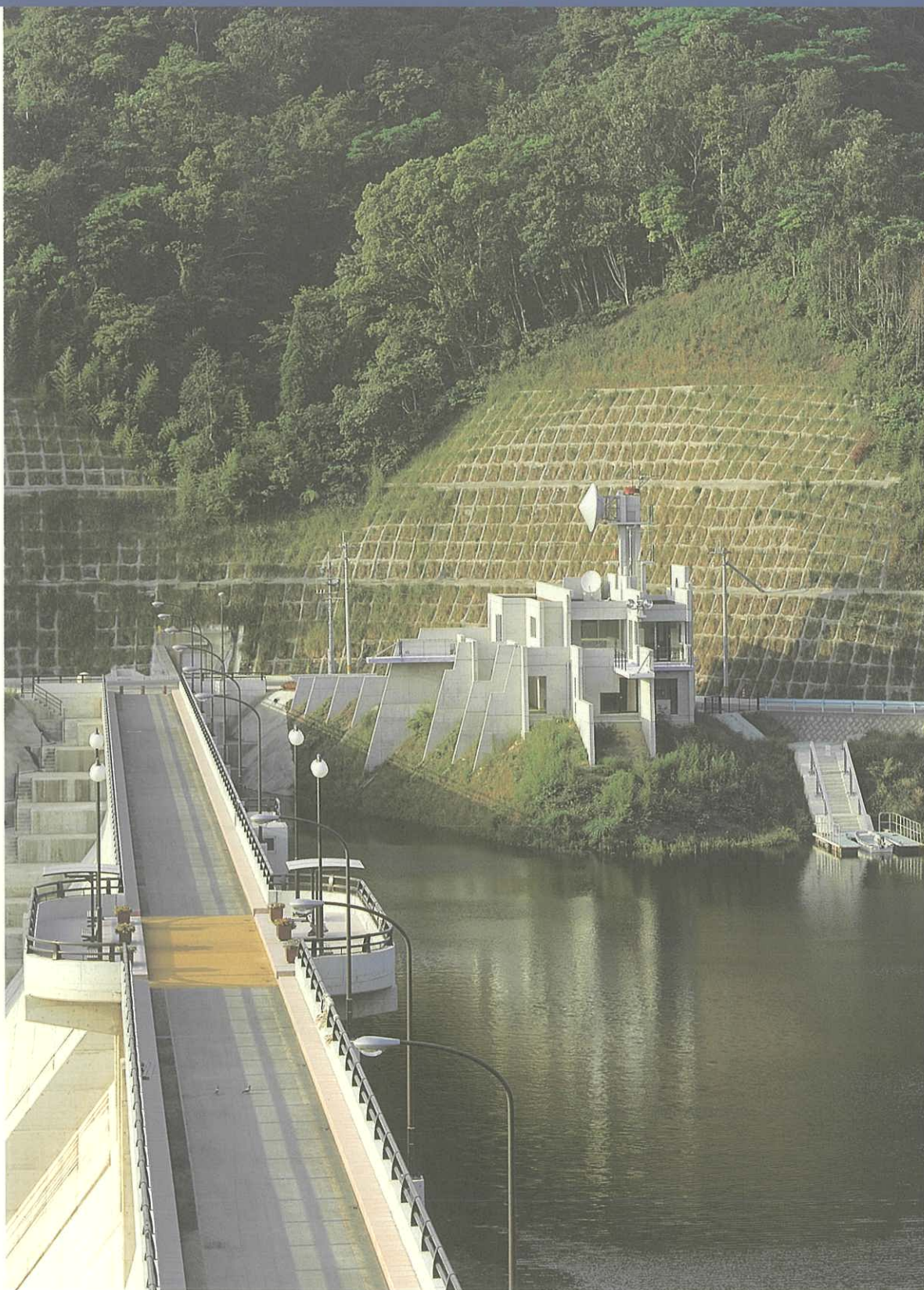
花の温泉館
ワークショップ



TOTO AQUAPIT ASO(阿蘇山上公共トイレ)
木島安史



清和文楽館
石井和紘



石打ダム管理所
青木 茂

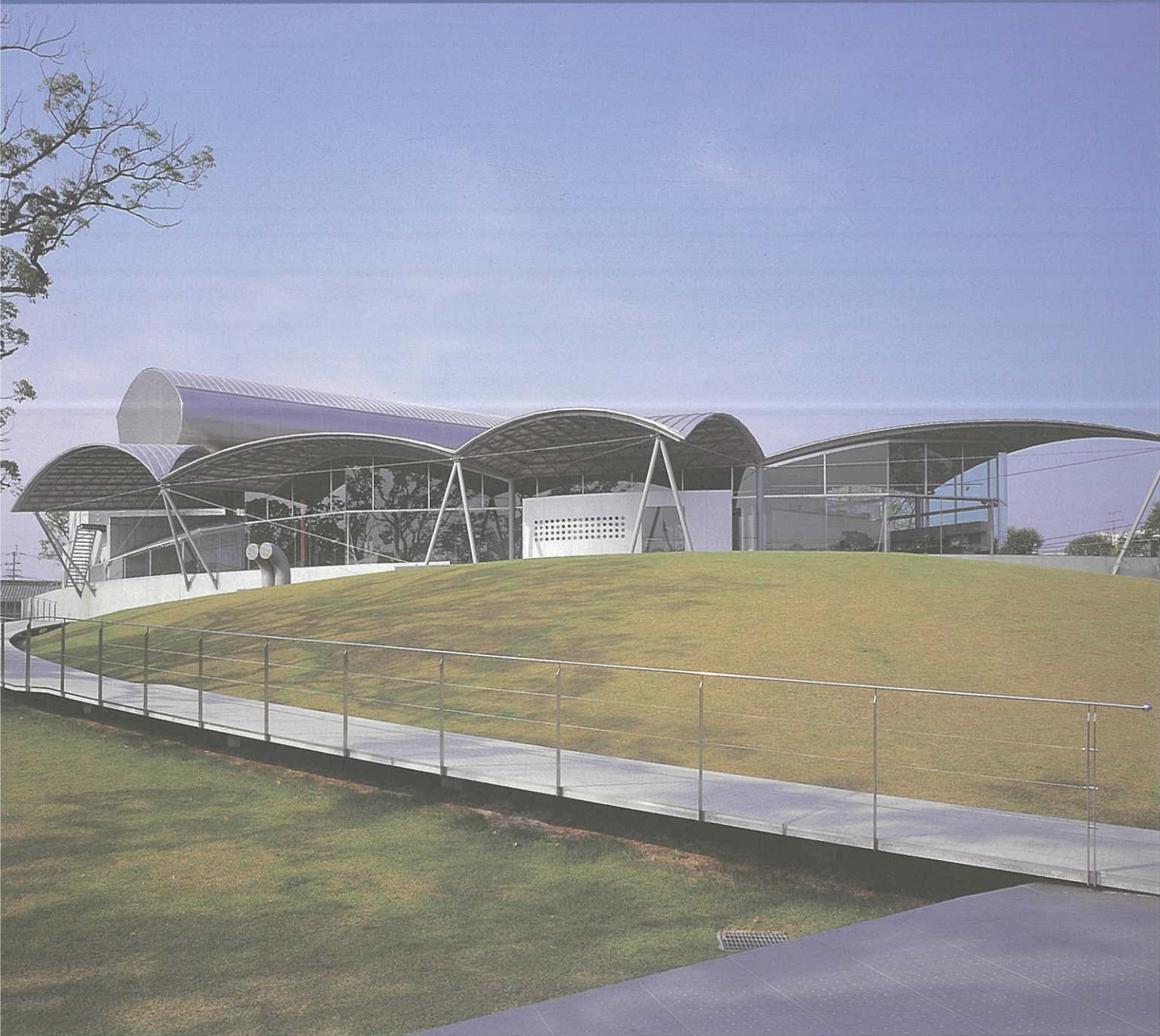


三角港フェリーターミナル

葉 祥栄



松島町合津終末処理場管理棟
齊藤 宏

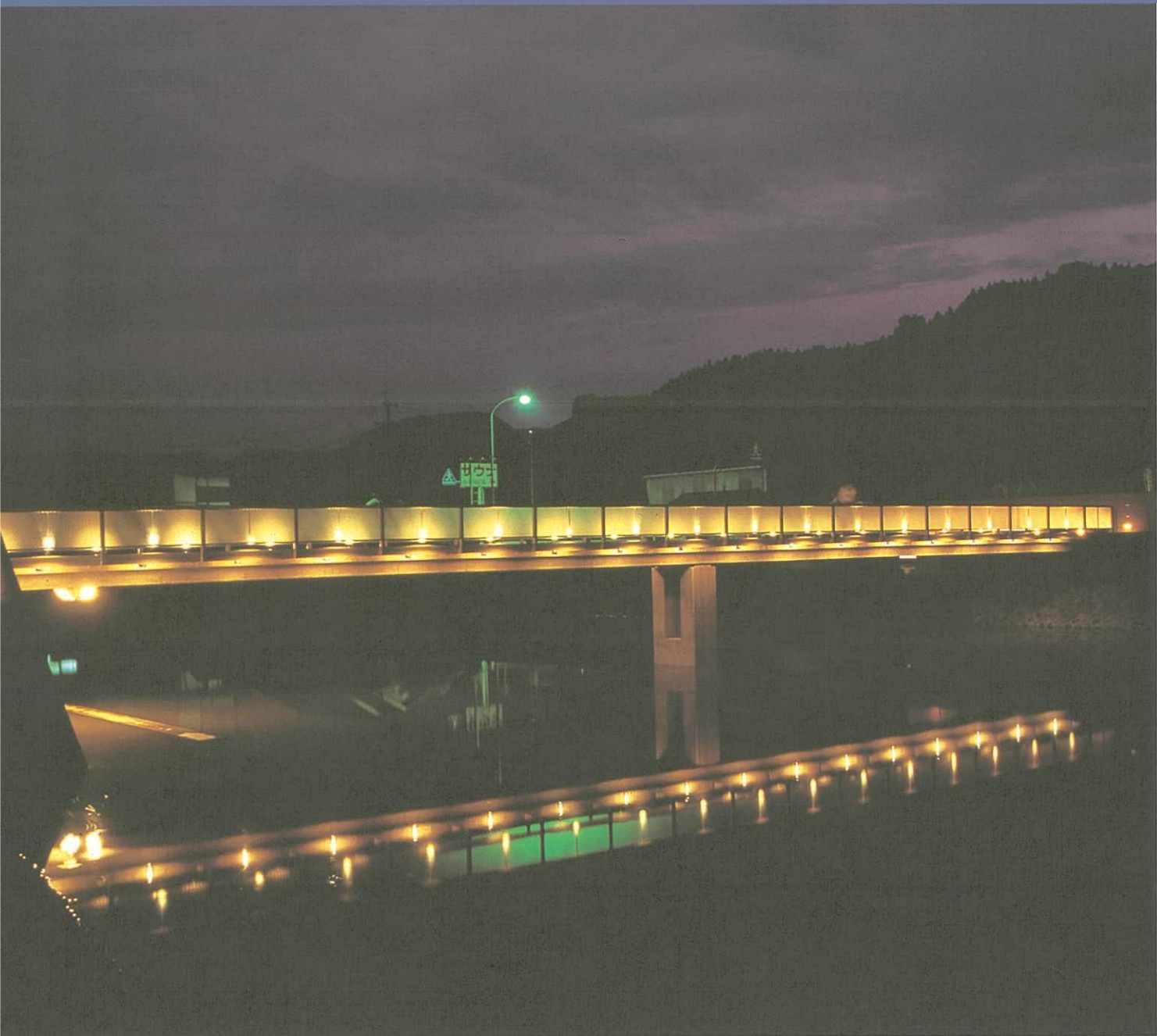


八代市立博物館 未来の森ミュージアム

伊東豊雄



教会の見えるチャペルの鐘展望公園
梅田正徳+スペースデザイン設計事務所



湯の香橋
岸 和郎



つなぎ物産ギャラリー
北山孝二郎



県立球磨工業高校伝統建築実習棟
象設計集団



湯前まんが美術館・公民館
桂 英昭



加久藤トンネル換気所
小山 明+パシフィックコンサルタンツ

熊本市営新地団地C
富永 譲



熊本市営新地団地D
西岡 弘

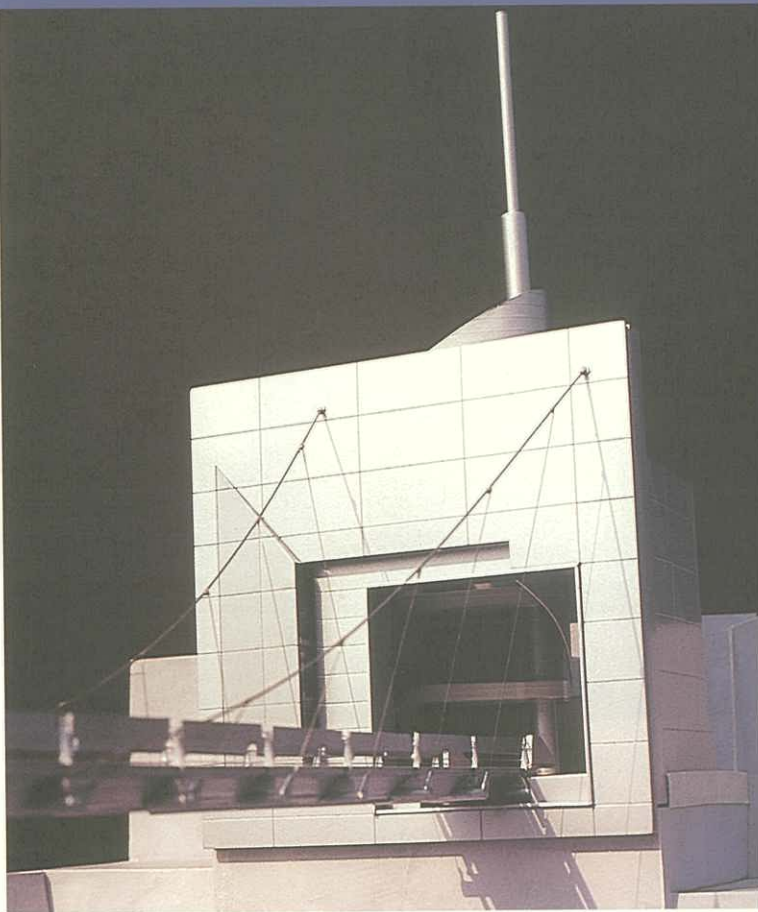


熊本市営新地団地E
上田憲二郎



県営新渡鹿団地
小宮山昭

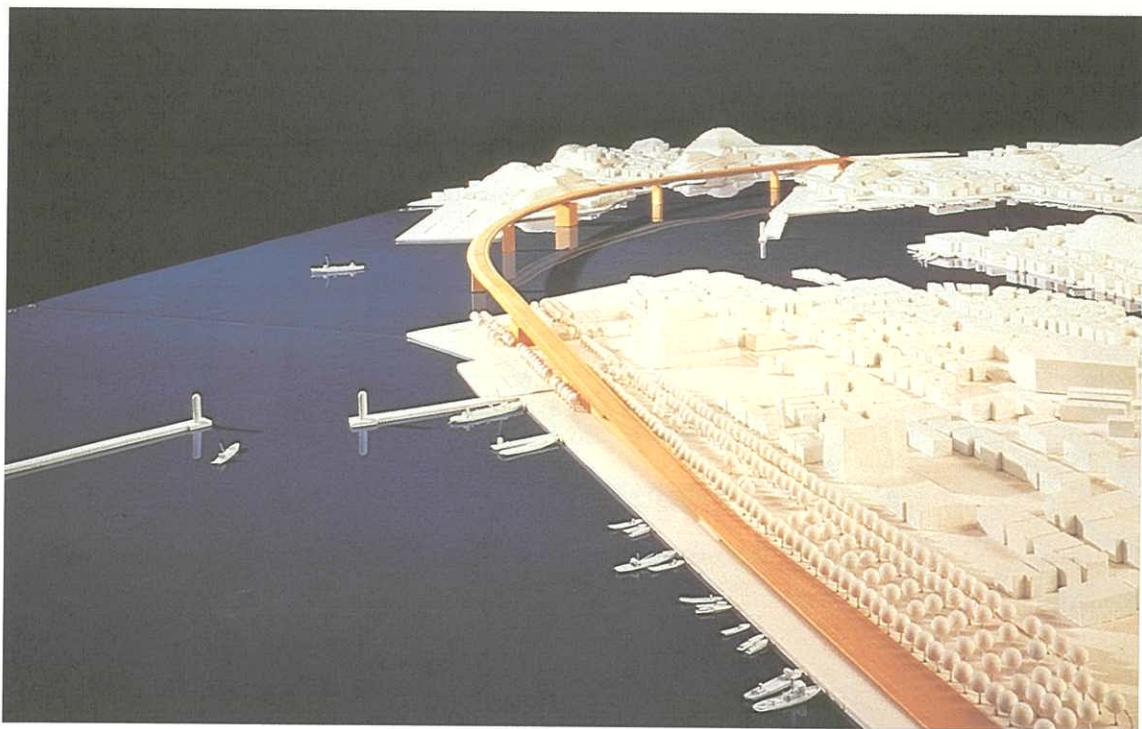
杖立橋
新井清一



石打ダム資料館
入江脩一



鮎の瀬大橋
大野美代子+中央技術コンサルタンツ



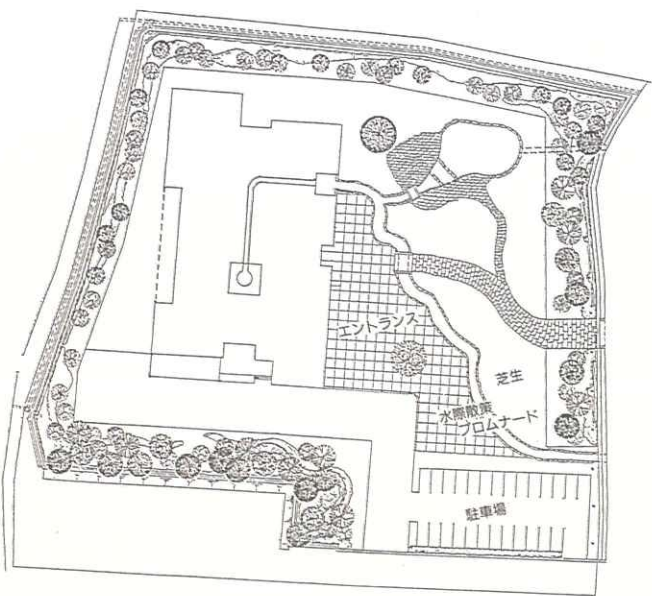
牛深漁港連絡橋
レンゾ・ピアノ+岡部憲明+
ピーター・ライス+前田設計

公園ファニチャーデザイン・
同整備マニュアル策定
沖 健次+東京ランドスケープ研究所

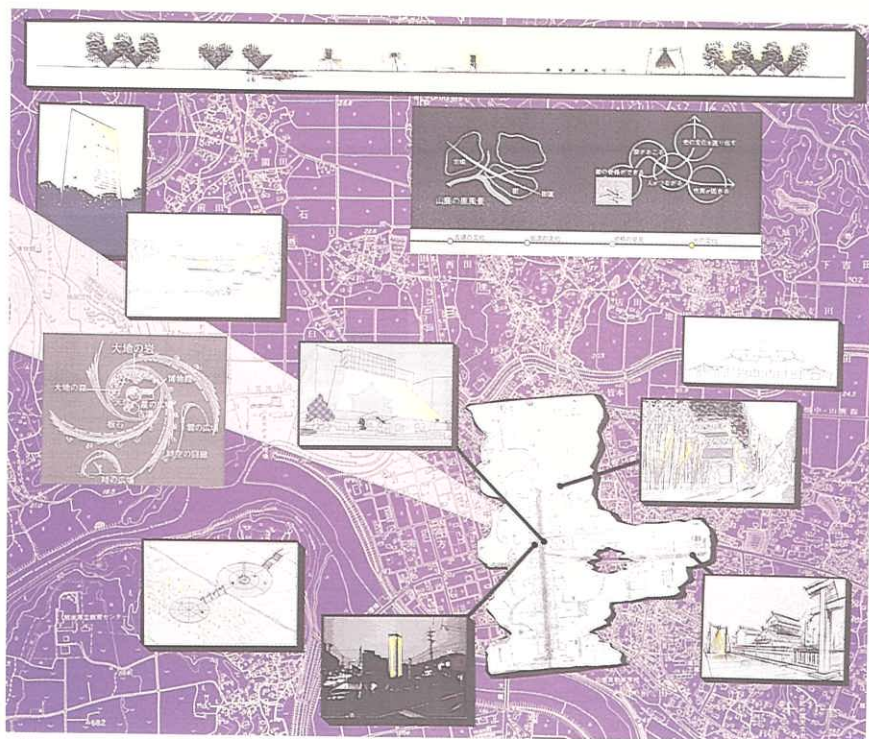
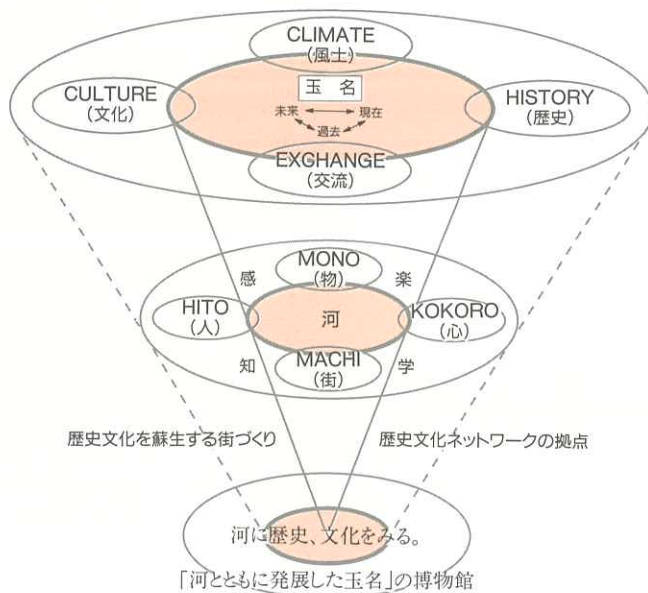


県道橋景観整備(基礎調査)
倉俣史朗+高木富士川計画事務所

大甲橋景観整備
倉俣史朗

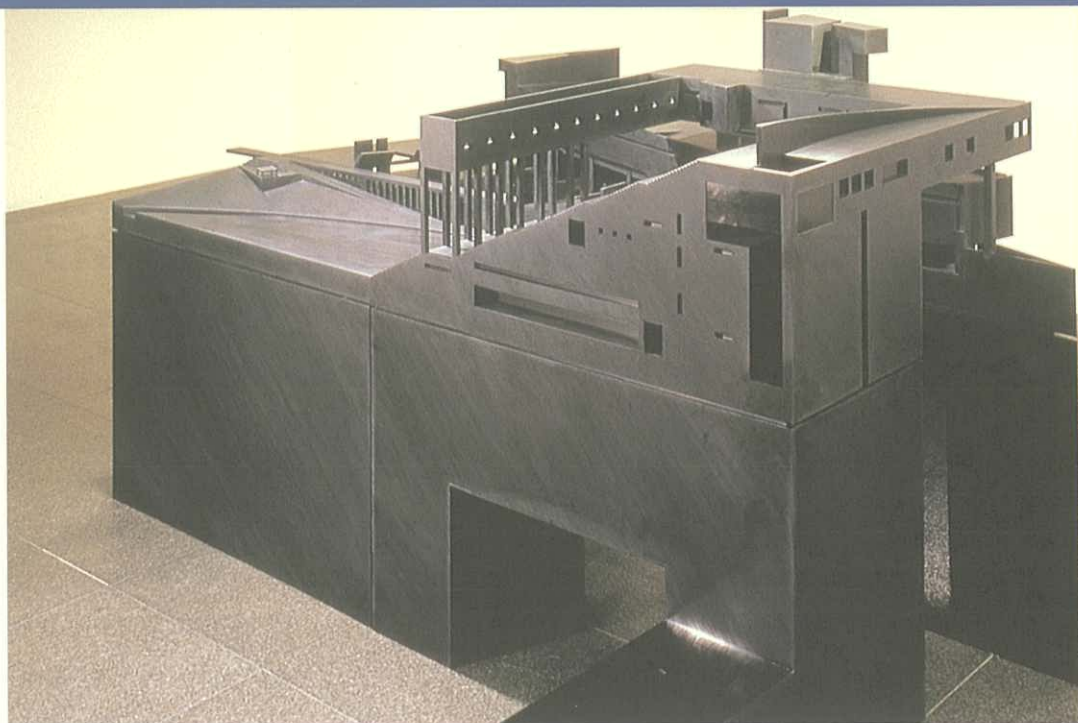


玉名市文化施設構想
豊田文生



光のまちづくり
岩崎 敬+瀬口英徳

大津町第二庁舎・町民交流施設
鈴木了二



くまもとアートポリス'92選定既存建造物

県内には、長い歴史の中で蓄積されてきた、歴史的建造物や県民が愛着をもっている建造物、新しいデザインや構法等の試みがなされている建造物のほか、集合することによってつくりだされる美しいまちなみや景観など数多く点在しています。これらの建造物の中から本県を代表するような建造物を選定し、アートポリス参加プロジェクトとともに、熊本の文化を広く世界に向けて発信するため、「くまもとアートポリス'92」において紹介することにしたものです。

まず、できるだけ多くの建造物をリストアップするため、建設年代、構造、用途等の制限を設けずに、県内の市町村、大学、高専、建築関係団体及び婦人団体等の各種団体に建造物等の推薦をお願いしました。その結果、建築物、石橋、まちなみ等約600件の推薦がありました。推薦された建造物は、年代的には戦前のものが多く、また、過去に何らかの評価や文化財の指定を受けたものや公共性の高い建造物が多くなりました。選定作業は、(財)熊本開発研究センターに委託し、熊本工業大学の堀内清治先生を委員長に、文化、建築、婦人団体など8名の委員からなる選定委員会を組織するとともに、熊本大学の桂 英昭先

生をチーフとするワーキンググループにより進められました。選定委員会には、特別委員として第一工房代表の高橋就一先生、東京家政学院大学の桐敷真次郎先生、東京大学の渡辺定夫先生に、ご参加いただき、現地調査を行っていただくとともに、それぞれの建造物に対してご意見をいただきました。また、千葉大学の故木島安史先生にもご助言をいただきました。

選定は、

- 専門家が評価した建造物
- 県民が愛着をもっている伝統的建造物
- 文学と結び付いたような文化的評価を得ている建造物

等の中から、できるだけ見学するうえで支障のないことや地域性等を考慮し、建築物、石橋、まちなみ等46件を選定していただきました。

今回の選定作業は、ただ単に県内の建造物をリストアップし選定するというだけでなく、熊本の建築資産目録を作成し、データベース化することからも大きな意義がありました。



細川家霊廟・泰勝寺
熊本市



泰勝寺茶室(仰松軒)
熊本市



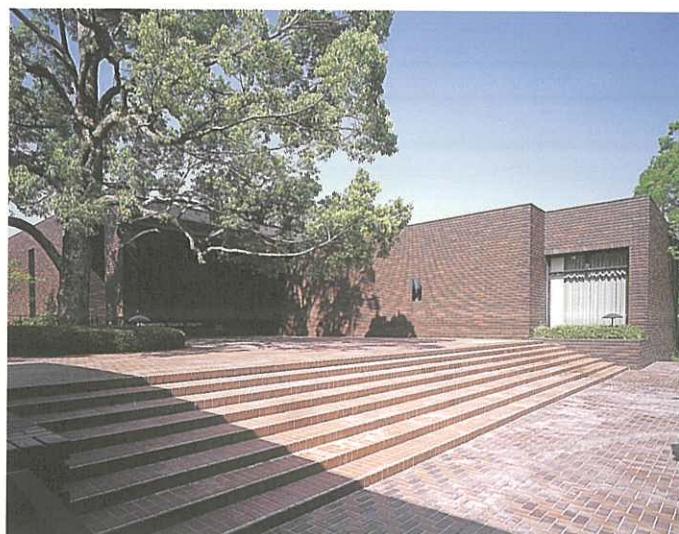
熊本大学資料館(旧第五高等学校本館)
熊本市



熊本大学資料館別館(旧第五高等学校化学教室)
熊本市



熊本大学工学部研究資料館
(旧熊本高等工業学校機械実験工場)
熊本市



県立美術館
熊本市



熊本城(石垣、宇土櫓等)
熊本市



数寄屋丸
熊本市



第一勧業銀行熊本支店
熊本市



細川家霊廟・妙解寺
熊本市



県営帯山第二団地
熊本市



県立東稜高校
熊本市



水前寺成趣園
熊本市



古今伝授の間
熊本市



熊本洋学校教師館ジエーンズ邸(日赤記念館)
熊本市



熊本市水道局
熊本市



木魂館
小国町



小国町交通センター
小国町



小国町民体育館
小国町



八千代座
山鹿市



岩本橋
荒尾市



緒方家住宅
菊水町



境家住宅



一の宮阿蘇神社
一の宮町



鉄砲小路
菊陽町



アスペクタ
久木野村



熊本テクノポリスセンター
益城町



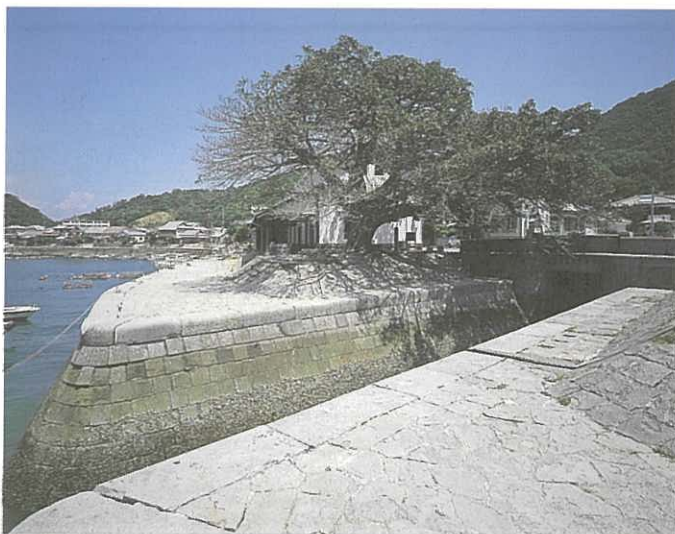
西原村営河原団地
西原村



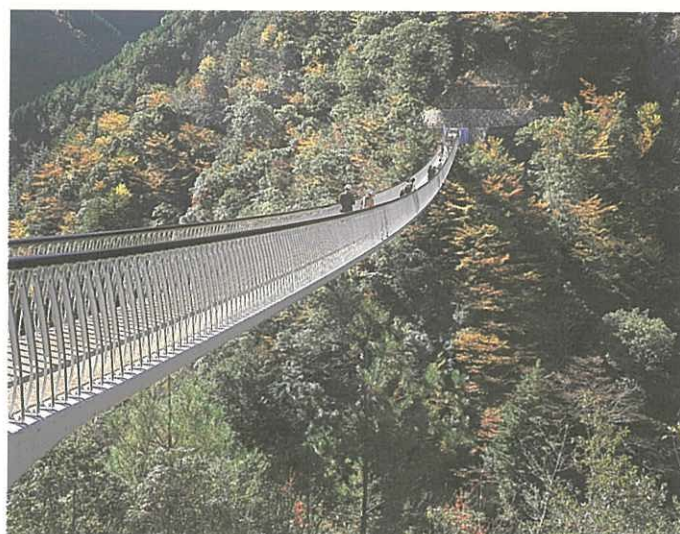
通潤橋
矢部町



霊台橋
砥用町



三角西港
三角町



梅の木轟公園吊橋
泉村



熊本県水産研究センター
大矢野町



東陽村営地の本団地
東陽村



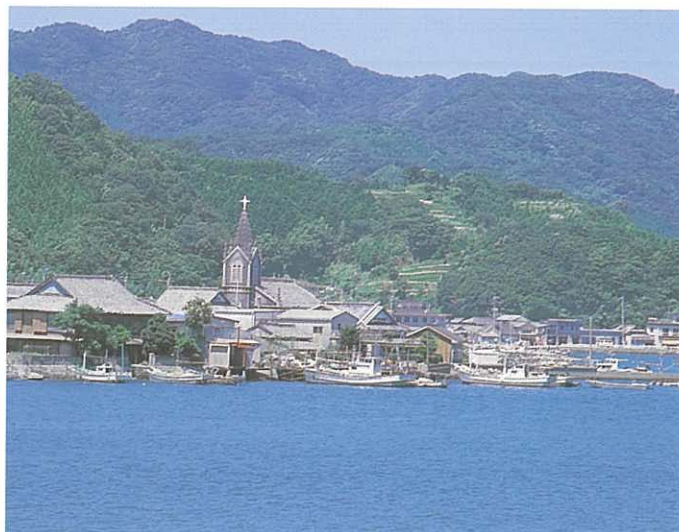
松浜軒
八代市



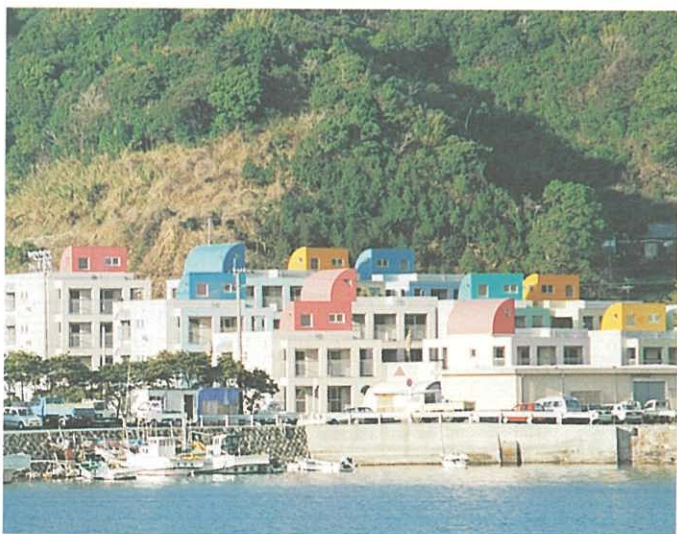
祇園橋
本渡市



大江教会堂
天草町



崎津教会堂
河浦町



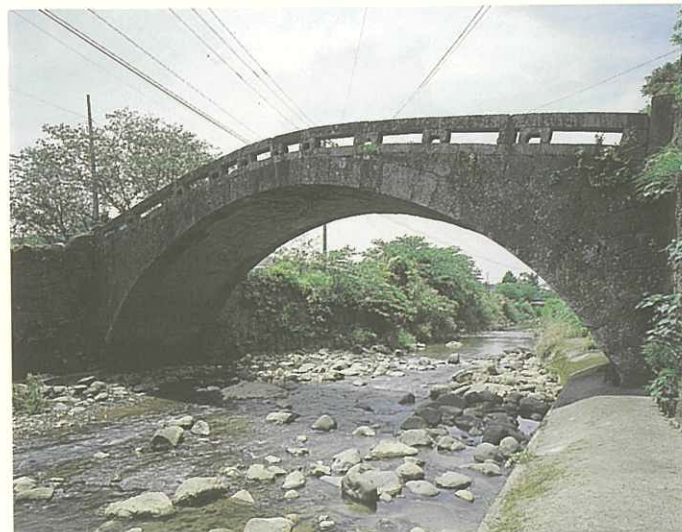
牛深市営鬼塚団地
牛深市



球泉洞森林館
球磨村



青蓮寺阿弥陀堂
多良木町



重盤岩眼鏡橋
津奈木町



青井阿蘇神社(楼門、本殿、幣殿、拝殿)
人吉市



太田家住宅
多良木町



明導寺阿弥陀堂(城泉寺)
湯前町



桑原家住宅
錦町

撮影

石丸捷一
大高 隆
清島靖彦
田中昌彦
富重清治
ナカサ&パートナーズ
長野良市
平井広行
藤塚光政
宮井政次
八木光保
熊本県広報課
くまもとアートポリス事務局

K・A・P

第2章

くまもと国際建築展
くまもとアートポリス'92

くまもとアートポリス'92

発足以来5年目を迎えた「くまもとアートポリス」は、これまで文化運動としての普及を目指し、幅広い展開を図ってきました。なかでも参加プロジェクトは40件を越え、その内すでに姿を現したものが28件に達しました。そしてこれらの優れた建造物は県民に刺激を与え、また地域の核となって県内各地のまちづくり運動を活性化させはじめています。

「くまもとアートポリス」では、その成果と現状を広く国の内外に発表するとともに、より一層の普及を目指して、4年ごとに国際建築展を開催することとしており、この度その第1回目として、くまもと国際建築展「くまもとアートポリス'92」を開催いたしました。

この建築展では、県内各地のアートポリス参加作品はもとより、これまで熊本の長い歴史の中で蓄積されてきた優れた建造物や、県内各地で進められているまちづくりの成果等、熊本の建築的ストックの全貌を紹介して広く世に問うと共に、県民全体が21世紀に向けた地域文化の創造に新しい視野を開くことを目指しました。

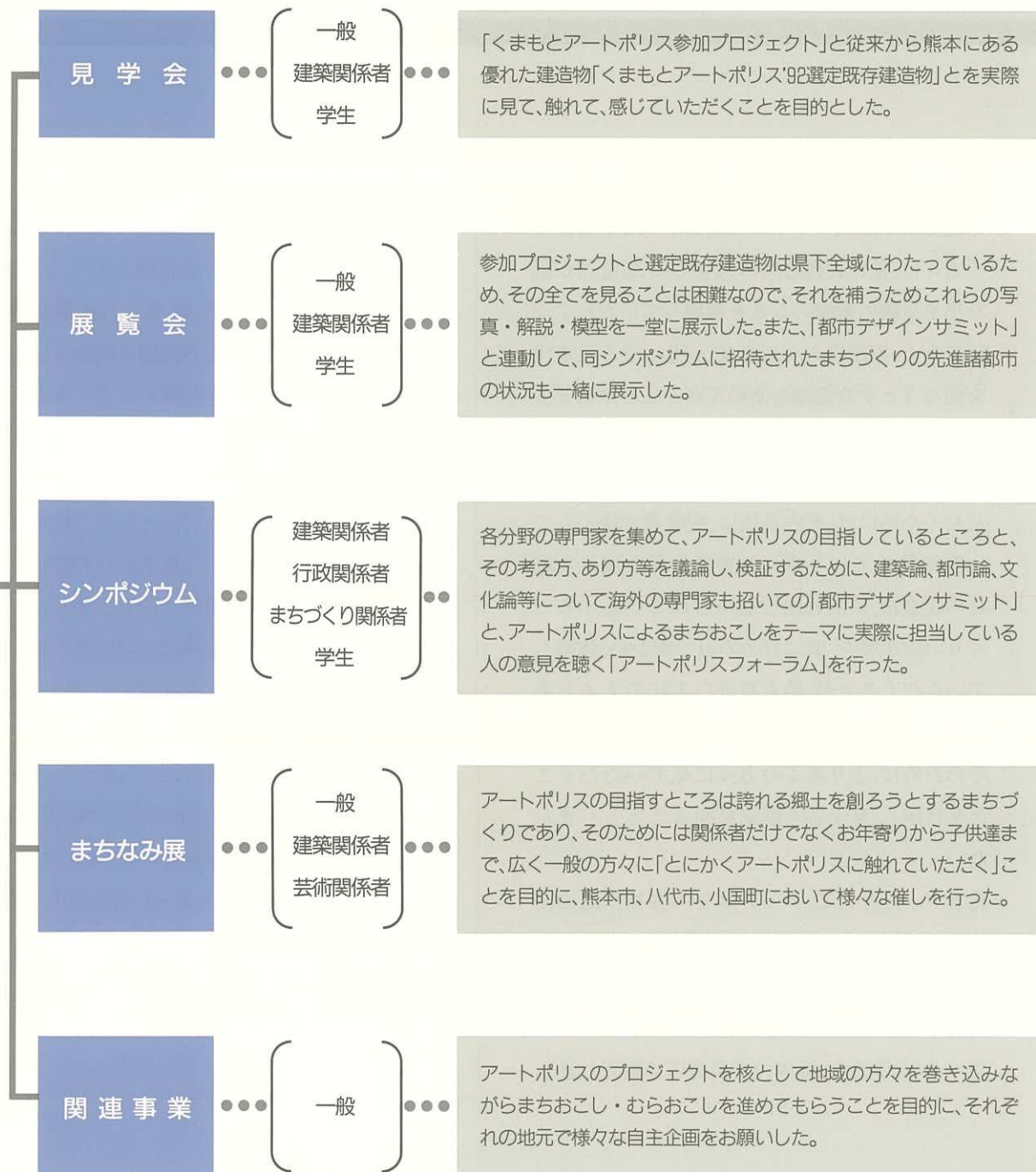
対象も“文化運動”「くまもとアートポリス」の紹

介、普及の場として、関係する専門家だけではなく、一般の方々、お年寄りから子供達までも対象とし、また、分野も建築・デザインだけでなく、まちづくりをはじめ、少しでも係わりのある分野全体に渡って様々な企画を用意しました。

また、広く全国に、さらには国外までを対象として紹介することによって、これから県外からの評価がフィードバックすることによる県内での波及効果も期待しました。

運営にあたっては、「くまもとアートポリス」がその主旨・目的において、県単独の事業ではなく県民一体となって進めるべきものであることから、関係諸団体の協力を仰ぎ、実行委員会を組織して実施することとし、また財政的には熊本県をはじめとして、まちなみ展を行った市や町及び諸団体等から負担金、協賛金を頂いて運営を行いました。

くまもとアートポリス'92



アートポリス見学会

「くまもとアートポリス」が目指す文化の香り高い魅力ある地域づくりのためは、一人でも多くの方々に、優れた建造物の大切さや建造物が創り出す景観の素晴らしさを理解していただくだけでなく、県民自らが次世代へ残し得る建造物を創ろうとする意識を高めてゆくことが必要です。熊本在住の方々は勿論のこと、広く国の内外に「くまもとアートポリス」の精神を理解していただくためには、県内各地に、現時点で竣工している28件のアートポリス参加作品と優れた既存の建造物、県内各地で進められているまちづくりの成果等を、直に自分の目で確かめ、体感していただくことが、最も有効な方法であると考えます。

そのために、より多くの方々に見ていただくことを目指し、見学者の便宜を図ることとしました。

見学グッズとして、アートポリス参加作品の所在地と道順を示した「くまもとアートポリス'92ガイドマップ」、各建造物等のマニュアルとして概要を紹介した「くまもとアートポリスガイドブック」を作成し、県内の有名書店で販売しまし

た。

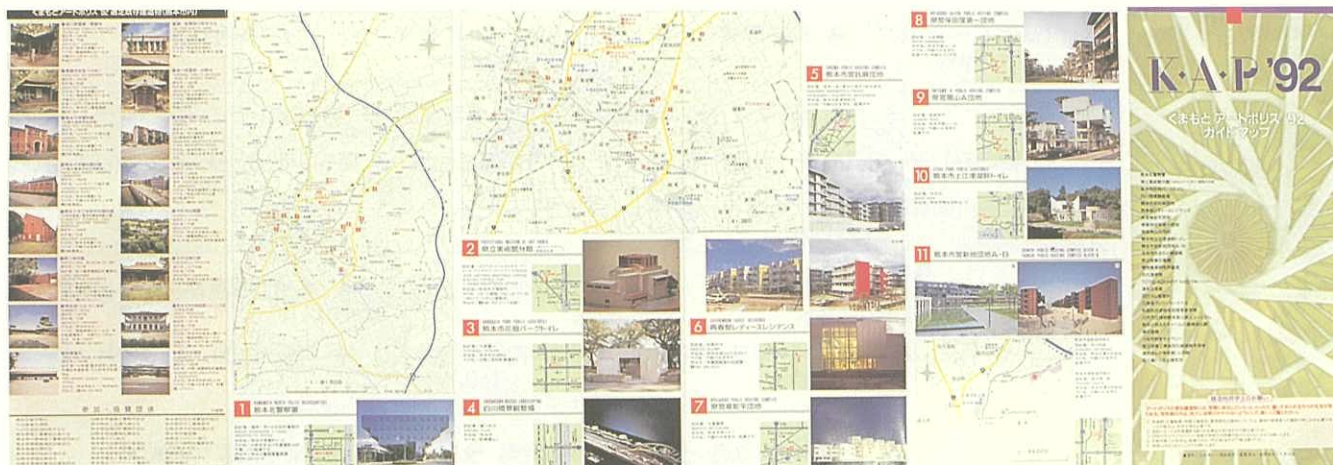
見学のための交通手段を確保するため、旅行会社パッケージツアーを企画してもらい、全国に広報しました。また、数多くの会議を誘致し「アートポリス見学会」の併催をお願いしました。報道関係者の見学会を実施して、「くまもとアートポリス'92」についての記事を紹介してもらい、見学者の誘致を図りました。

個人で見学する人への対応として、案内標識を設置し、駐車場を確保し、見学上のお願いを書いた看板を作り必要な場所に設置しました。

アートポリスの諸建造物は、本来、多くの方々に訪れて見てもらうことを目的とした特別施設は少なく、ごく普通の施設が多いことから、これらの施設の管理者・入居者にご迷惑をかけないために、集合住宅でのプライバシーの侵害、学校での授業、警察での仕事の妨げ等にならないように「くまもとアートポリス'92」の期間中、案内・整理のためのスタッフを配置しました。

見学会グッズ

県内全域に存在する参加プロジェクト、選定既存建造物の所在地、道順、建造物概要を掲載した「くまもとアートポリス'92ガイドマップ」と「くまもとアートポリスガイドブック」を作成しました。



くまもとアートポリス'92ガイドマップ

見学可能な参加プロジェクト28件、選定既存建造物46件のすべてをわかりやすく地図にプロット。アートポリス見学会の必需品。蛇腹 6面折り（展開寸法297mm×840mm）。



くまもとアートポリスガイドブック

参加プロジェクト42件、選定既存建造物46件の概要が一目でわかるハンディタイプのガイドブック。見学モデルコースも紹介。B6判 135ページ 1,500円。

見学モデルコース

県内全域の参加プロジェクトと選定既存建造物を結んだ見学コースを設定し、実際の建造物を展示物とした「くもとアートポリス'92」を多くの方々に体感していただきました。

1日コース	標準コース	交通センター → 熊本北警察署 → 県立装飾古墳館 → (植木IC～八代IC) → 八代市立博物館 → (10分) (60分) (85分) (八代IC～御船IC) → 保田窪第一団地、帯山A団地 → 花畑パークトイレ、交通センター (50分) (20分)
	熊本市内コース	交通センター → 熊本北警察署 → 新地団地A、B → 託麻団地 → 再春館レディースレジデンス (10分) (25分) (20分) (15分) (外観のみ) → 保田窪第一団地・帯山A団地 → 帯山第二団地 → 竜蛇平団地 → 上江津湖畔トイレ (10分) (5分) (10分) (10分) → 白川橋景観整備 → 花畑パークトイレ、交通センター (20分) (10分)
	Aコース	交通センター → 八代市立博物館、松浜軒 → (八代IC～人吉IC) → 球磨工業高校伝統建築実習棟 (80分) (50分) (15分) → 湯前まんが美術館 → 青蓮寺阿弥陀堂 → (人吉IC～熊本IC) → 花畑パークトイレ、交通センター (60分) (20分) (120分)
	Bコース	交通センター → 県立美術館分館 → 県立装飾古墳館 → 八千代座 → 菊水民家村 → (5分) (50分) (10分) (20分) (20分) 玉名天望館 → 熊本北警察署 → 花畑パークトイレ、交通センター (70分) (10分)
アートポリス'92参加建造物全てを見るツアー(3泊4日)	1日目	交通センター → 三角フェリーターミナル → 松島町合津終末処理場 → チャペルの鐘展望公園 → (80分) (30分) (110分) (130分) 石打ダム管理所 → (県道21号・県道14号経由) → 日奈久温泉(宿泊) (100分)
	2日目	日奈久温泉 → 八代市立博物館 → 湯の香橋 → つなぎ物産ギャラリー → (県道27号・国道219 (10分) (50分) (15分) (60分) 号経由) → 球磨工業高校伝統建築実習棟 → 加久藤トンネル換気所 → 湯前まんが美術館 → (40分) (70分) (国道219号～人吉IC～御船IC～国道445号) → 熊本市内ホテル(宿泊) (150分)
	3日目	熊本市内ホテル → 清和文楽館 → (高森・吉田線) → TOTO AQUAPIT ASO → (90分) (60分) (坊中・やまなみハイウェイ) → 花の温泉館 → 草地畜産研究所 → 山鹿温泉(宿泊) (80分) (60分) (50分)
	4日目	山鹿温泉 → 県立装飾古墳館 → 玉名天望館 → 新地団地A、B → 託麻団地 → 再春館レディ (15分) (40分) (80分) (20分) (15分) ースレジデンス → 保田窪第一団地、帯山A団地 → 竜蛇平団地 → 上江津湖畔トイレ → 熊本北 (外観のみ) (5分) (5分) (10分) (15分) 警察署 → 県立美術館分館 → 花畑パークトイレ、交通センター (10分) (5分)

見学ツアー

少しでも多くの方にアートポリス見学会に参加していただくために、旅行会社にパッケージツアーの企画広報をしてもらい、また、期間中、数多くの会議を誘致しアートポリス見学バスツアーの併催をお願いしました。さらに、広報活動の一環として報道関係者の見学会も実施しました。

バスツアー運行状況

※11月運行分を記載

3日 tue	  2	アートポリス'92実行委員会企画見学会 フランス建築家協会
4日 wed	    4	都市デザインサミット招待者見学会 アートポリス'92実行委員会企画見学会 宮崎県建築士会日向支部
5日 thu	  2	報道関係者見学バス 九州各県広報主管課長会議
6日 fri	    4	報道関係者見学バス 全国法人会青年会
7日 sat	     5	アートポリス'92実行委員会企画見学会 岡山県庁・倉敷市役所合同視察団 九州大学工学部建築学科
8日 sun	  2	アートポリス'92実行委員会企画見学会 北九州建築設計協会・北九州デザイナー協会
10日 tue	  2	動く県政教室 静岡県岡部町議会視察団
11日 wed	   3	神戸市議会視察団 岐阜工業高等専門学校建築学科 長崎県市町村公営住宅担当者視察団
12日 thu	       7	建築デザイン会議 静岡県議会視察団
13日 fri	   3	地財塾現地視察会 岐阜県議会視察団 大分県建築士会佐伯支部
14日 sat	  2	ガーディナー・ジャパン 大分県建築士会佐伯支部
15日 sun	    4	インテリアデザイナー協会
19日 thu	    4	全国開発審査会長会議 九州ブロック営繕担当者(設備)職員研修会 日本旅行ツアー
20日 fri	                           20	市町村職員研修生現地視察研修 全日本建設技術協会研修会 鹿児島県建築事務所協会 新日本建築家協会 地財塾現地視察会
21日 sat	  2	鹿児島県建築事務所協会 山口県建築士会新南陽支部
22日 sun	    4	熊本大学建築学科 長崎青年会議所建設部会 島根県協同組合建築技術センター
23日 mon	 1	島根県協同組合建築技術センター
25日 wed	    4	動く県政教室 九州地区公立学校建築技術協議会 九州ブロック住宅供給公社視察団
27日 fri	                           8	松橋養護学校 長崎県小浜町文化協会 九州ブロック建築行政担当者会議 東京ヒューマニア研究会 交通計画九州ブロック担当者会議
28日 sat	  2	株式会社衛藤中山設計(鹿児島市) 株式会社春園組(鹿児島市)
29日 sun	                           5	RUDEC研究会 佐賀県建築士会 北九州市建設局学校建設課 ふれあいの旅ツアー
30日 mon	  2	RUDEC研究会 長崎総合科学大学

夏休み見学ツアー

第1日 8/21 fri	交通センター → 熊本北警察署 → 水前寺公園 → 保田窪第一団地 → 帯山A団地 → 再春館レディースレ (11:00) (11:15) (11:45) (12:00) (12:50) (13:00) ジデンス → 託麻団地 → 新地団地A、B → 交通センター (15:00) (15:15) (16:15) (16:30) (17:30) (18:00)
第2日 8/22 sat	交通センター → 八代市立博物館 → 八代まちなみ展参加・八代市内見学（松浜軒、各イベント会場） → (9:00) (10:30) (12:00) (20:30) 日奈久温泉（宿泊） (21:00)
第3日 8/23 sun	日奈久温泉 → 三角港フェリーターミナル → 石打ダム → 県立装飾古墳館 → 交通センター (8:30) (10:20) (10:40) (10:55) (11:10) (13:00) (14:00) (15:00)

8月の八代まちなみ展にあわせて夏休み見学ツアーを開催し、全国から学生を中心に167人（4割が女性）の参加者がありました。
参加料 27,500円。



建築が何かをするのでなく、建築のインパクトで人が何かをするものだと思います。県の職員の方々や桂さん、新納さんたちが生き生きと活動していらしたのが印象的でした。「良い建築は残すものだ」というお話でしたが、その活動は

地道であり、長くもあり、今、アートポリスが新しいエネルギーで乗り切っているのよりもはるかに困難かと思います。また、そこまでも深いものになってこそ「文化」なのでしょう。どうかいつまでもがんばってください。

（夏休み見学ツアー参加者アンケートより）

見学者数

※ 入場者数が把握できる施設のみの入場者数。

アートポリス参加プロジェクト

熊本北警察署	1,589 人
県立美術館分館	9,542 人
再春館レディースレジデンス	240 人
県営竜蛇平団地	* 323 人
県営保田窪第一団地	* 1,574 人
県営帯山 A 団地	* 1,574 人
県立装飾古墳館	10,963 人
花の温泉館	3,374 人
TOTO AQUAPIT ASO(阿蘇山上公共トイレ)	(66,270)人
清和文楽館	7,320 人
八代市立博物館 未来の森ミュージアム	4,584 人
つなぎ物産ギャラリー	4,100 人
県立球磨工業高校伝統建築実習棟	426 人
湯前まんが美術館・公民館	3,062 人

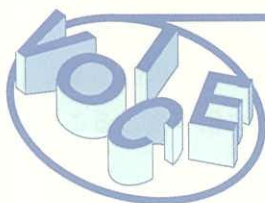


選定既存建造物

細川家霊廟・泰勝寺	6,227 人
熊本大学資料館(旧第五高等学校本館) 熊本大学資料館別館(旧第五高等学校化学教室) 熊本大学工学部研究資料館(旧熊本高等工業学校 機械実験工場)	* 650 人
県立美術館	4,959 人
熊本城(石垣、宇土櫓等)	(125,317)人
細川家霊廟・妙解寺	2,227 人
県立東稜高校	* 100 人
水前寺成趣園・古今伝授の間	(158,000)人
木魂館	6,248 人
小国町民体育館	4,661 人
八千代座	3,773 人
緒方家住宅・境家住宅	4,333 人
アスペクタ	9,565 人
熊本テクノポリスセンター	8,723 人
熊本県水産研究センター	2,397 人
松浜軒	935 人
球泉洞森林館	6,000 人

合計人数	459,056 人
()抜き見学者数	109,469 人

* は案内・整理スタッフが把握できた人数。



初めての企画で、地元の人々には何がすごいのかということが良く分かっていない状況だったと思う。もっと、このアー

トポリスの建築が人々に使われて、素晴らしいのだと実感できたらいいと思いました。

(夏休み見学ツアー参加者アンケートより)

見学会のために



見学上のお知らせ

個人で見学する方のために、案内標識 (350 mm×230 mm) 100 枚、見学上のお知らせを書いた看板 (900 mm×600 mm) 12 枚を設置するとともに、見学者のための駐車場確保に努めました。さらに、見学会の対象建造物の管理者・入居者にご迷惑をかけないために、期間中、案内・整理のスタッフ (延べ 170 人) を配置しました。



案内サイン



駐車場看板



「文化」を創る——といったとき、ホールや美術館など、記念碑的な建物を建てて、街の文化レベルが上がったように考える(そうしてできた大変立派な建物は日本中にいっぱいある)。しかしながら、公立の小中学校や、公営住宅、児童公園など、はるかに日常的に使用されながら、単なるプロトタイプの繰り返しでよし

とされているものも少なくない。くまもとアートポリス構想のなかで、住宅も博物館と同列におかれ、また土木施設なども対象としているのは大変意義深いことだと思う。第二、第三の保田窪団地が増えてゆけば、どんなに街を変えることになるだろう。

武部由紀子(オム設計室)



見学会

建築を見学ということは一般にはどういう意味を持っているのだろうか？古いお寺や遺跡を訪ねるときは、その建物や庭や物たちが目的で行くわけであるが、銀行やデパートの場合には、建物を見に行くという人はよほど専門の建築関係者であって、ほとんどの人には建物は見えているものの、預金残高や商品のディスプレイに気をとられており建築にはなかなか思いが及ばないものだ。

アートポリスの見学には、対象が用途を持った現代建築であるために、見学者自身の建築に対する認識と理解が無ければ、絵画や彫刻のように純粹に「建築を鑑賞する」ことは難しいようにも思える。だから用途に対する個人的な思い入れや、単に材料や工法だけに目が行ってしまうことになるのではないか？また建築関係者以外の人たちの参加が少なかった原因かもしれない。このように建築に対しての、鑑賞や見学といった視点はまだ一般には育っておらず、専ら建築関係者のみの見学会となってしまったのは残念であった。しかし建築関係者といっても多様な分野にまたがっており、その中では広い分野の人々に見てもらえたのは良かった。ただし施工に、材料に、行政に、使い方に、福祉にと微に入り

細にわたって詳細を知りたいがる人種であるので、もっと細かく見たい、知りたい、という人は多かったようだ。参加建物の分布が県内全域にまたがったので、一つの施設と次の建物の距離は遠く、見学には多くの時間と経済的余力が必要であった。熊本市内には比較的集中してはいるものの、公共交通機関だけでは目的地へは簡単に行けない所が多かった。特に細街路に面する建物の多い公営住宅団地は見学者を迷わせた。見学バスが有料であったのは、残念であった。次回には市内だけでも無料のマイクロバスを数台、期間中は巡回させて欲しい。また自家用車の駐車場も設置できない所があった。団地や学校など、本来公開しない用途の建物も見学には適しない。次回には見学のためのルートや見学できる2～3室が、ある期間中だけでも用意されることを望みたい。

このように、いろいろと改善したいこともあったが、建物を見学し鑑賞することが一般市民の中に定着し、建物と都市の文化的基盤がより深くなる機会が多く作られたことは、喜ばしいことであった。

上田憲二郎（くまもとアートポリス92実行委員会見学会部会長）

アートポリス展覧会

くまもとアートポリス'92においては、参加プロジェクトの実物を見てもらうことが最も望ましいことですが、現実には全部のものを見るのはなかなか困難なことです。そこで、それ自身が参加プロジェクトである県立美術館分館を会場に、参加プロジェクトの全てについてその全容を紹介することとしました。そのため、「くまもとアートポリス展」として参加プロジェクト全42件についてパネル、模型を一堂に展示するとともに、より詳しく知りたい人を対象として設計・施工図展を行いました。

また、県内に従前からある優れた建造物をまちなみとして紹介するために、選定委員会によって選定された「くまもとアートポリス'92選定既存建造物」46件を紹介する「熊本のまちなみと建築展」を行いました。

他方、建築を核としたまちづくりの重要性、必然性を理解して頂くために、くまもとアートポリスと同様の考えでまちづくりを進めていることからシンポジウム「都市デザインサミット」に招待した国外8都市、国内3都市についての紹介も行いました。

同時に、熊本まちなみ展で行われたコンペ「都市に浮かぶベンチ」における入選作品の実作と優秀案の展示、及び小国まちなみ展でのコンペ「田園に佇むキオスク」の優秀案の展示を行いました。

11月一ヶ月にわたって行ったこの展覧会は、本県の“美術館”で行われた初めての本格的かつ大規模な“建築展”であり、建築が芸術の一つのジャンルであることを訴えることもめざしました。そのため、一般、学生は有料とし、中学生以下の子供は無料として、展覧会としての格調を保つと共に、より多くの人々に見て頂くことをめざしました。

◆期 間：平成4年11月4日(水)～11月30日(月)

◆場 所：熊本県立美術館分館

◆メニュー：くまもとアートポリス展……………1

設計図・施工図展示コーナー……………7

KAP ビデオ閲覧コーナー……………3

KAP 資料閲覧コーナー……………5

熊本のまちなみと建築展……………1

世界のまちづくり展……………2、4

デザイン・コンペティション入賞作品展……………6

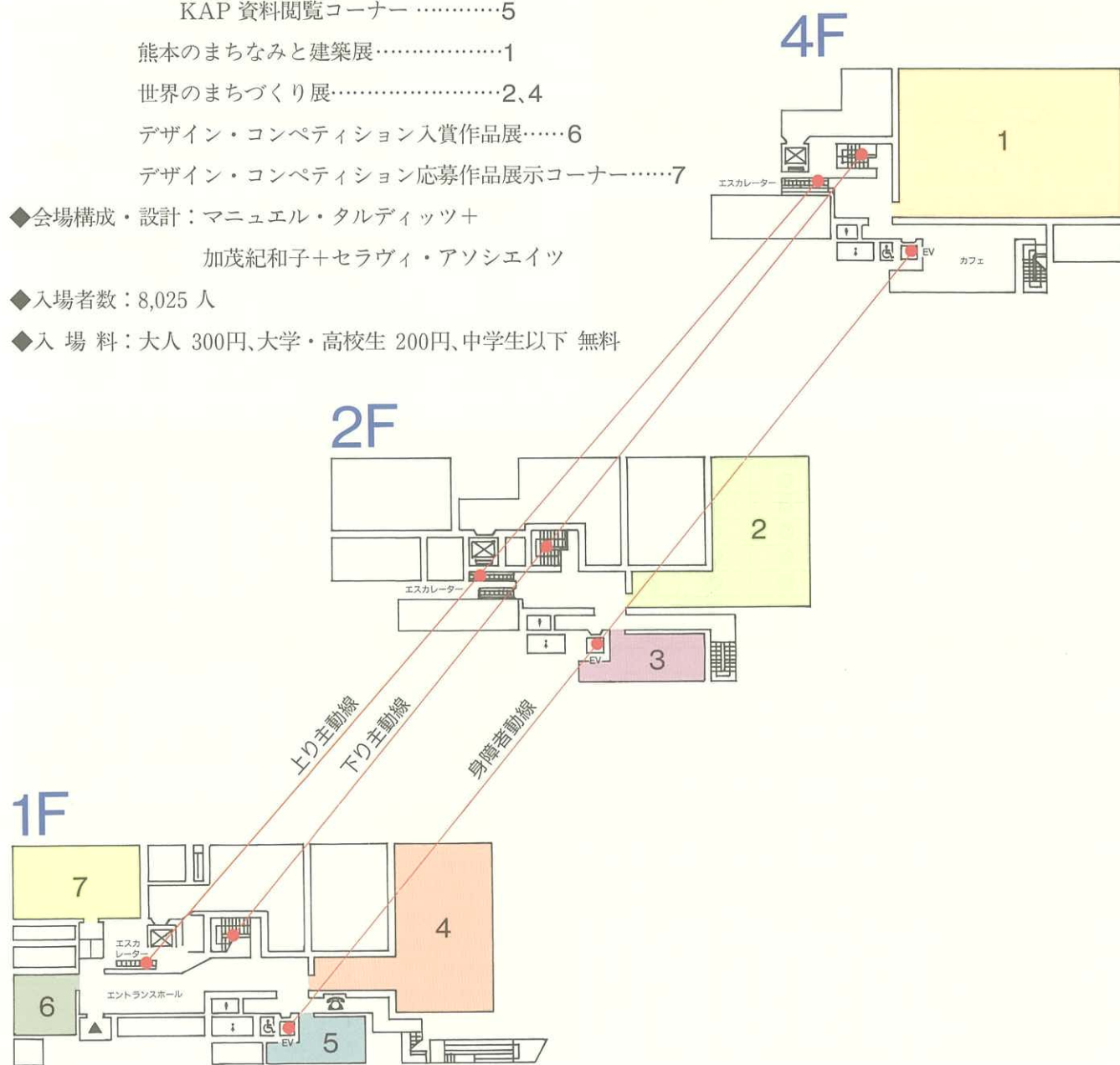
デザイン・コンペティション応募作品展示コーナー……………7

◆会場構成・設計：マニュエル・タルディッツ＋

加茂紀和子＋セラヴィ・アソシエイツ

◆入場者数：8,025 人

◆入 場 料：大人 300円、大学・高校生 200円、中学生以下 無料



くまもとアートポリス展



くまもとアートポリス事業の趣旨を紹介するとともに、その4年間の成果である、全42件のプロジェクトの全容を、写真パネル、模型、ビデオ等で総括的に紹介しました。

◆展示内容

- 4階展示室 写真パネル、模型の展示。ビデオ“アートポリス1992”をエンドレス上映。
- 2階ビデオ室 ビデオデッキ3台を設置した完成プロジェクト紹介ビデオ(全27巻)の自由鑑賞コーナー。ビデオ“アートポリス1992”(60分)とそのダイジェスト版(17分)も用意。
- 1階ギャラリー 参加プロジェクトの設計図、施工図の閲覧コーナー。
- 1階図書室 新建築、建築文化、SD、日経アーキテクチュア、室内、日経トレンディ、週刊読売、BRUTUS等、雑誌約150種類200冊の閲覧コーナー。

プロジェクト名	パネル枚数	模型	ビデオ(アートポリス1992)	完成プロジェクト紹介ビデオ	設計図	施工図	プロジェクト名	パネル枚数	模型	ビデオ(アートポリス1992)	完成プロジェクト紹介ビデオ	設計図	施工図
アートポリス説明パネル等	3		◎				八代市立博物館未来の森ミュージアム	2	◎	◎	◎	◎	◎
熊本北警察署	2	◎	◎	◎	◎	◎	教会の見えるチャペルの鐘展望公園	2	◎	◎	◎		
県立美術館分館	2	◎	◎	◎	◎	◎	湯の香橋	2	◎	◎	◎	◎	◎
熊本市花畑パークトイレ	2	◎	◎	◎	◎		つなぎ物産ギャラリー	2	◎	◎	◎		◎
再春館レディースレジデンス	2	◎	◎	◎	◎	◎	県立球磨工業高校伝統建築実習棟	2	◎	◎	◎	◎	◎
県営竜蛇平団地	2	◎	◎	◎		◎	湯前まんが美術館・公民館	2	◎	◎	◎	◎	◎
熊本市営託麻団地	7	◎	◎	◎	◎	◎	加久藤トンネル換気所	2	◎	◎	◎	◎	◎
県営保田窪第一団地	2	◎	◎	◎		◎	熊本市営新地団地C	1	◎				
県営帯山A団地	2	◎	◎	◎		◎	熊本市営新地団地D	1	◎			◎	
熊本市上江津湖畔トイレ	2	◎	◎	◎	◎		熊本市営新地団地E	1	◎			◎	
熊本市営新地団地(マスタープラン)	1						県営新渡鹿団地	1	◎				
熊本市営新地団地A	2	◎	◎	◎		◎	白川橋景観整備	1	◎			◎	◎
熊本市営新地団地B	2	◎	◎	◎	◎	◎	杖立橋	1	◎				
玉名天望館	2	◎	◎	◎	◎	◎	石打ダム資料館	1	◎			◎	
県立装飾古墳館	2	◎	◎	◎	◎	◎	鮎の瀬大橋	1	◎				
草地畜産研究所畜舎	2	◎	◎	◎	◎	◎	牛深漁港連絡橋	1	◎			◎	
花の温泉館	2	◎	◎	◎		◎	公園ファニチャーデザイン・同整備マニュアル策定	1	◎				
TOTO AQUAPIT ASO (阿蘇山上公共トイレ)	2	◎	◎	◎	◎	◎	県道橋景観整備(基礎調査)	※大甲橋景観整備のパネルに、概略のみ記載					
清和文楽館	2	◎	◎	◎		◎	大甲橋景観整備	2	◎				
石打ダム管理所	2	◎	◎	◎	◎	◎	玉名市文化施設構想	1					
三角港フェリーターミナル	2	◎	◎	◎	◎	◎	光のまちづくり	1				◎	
松島町合津終末処理場管理棟	2	◎	◎	◎	◎	◎	大津町第二庁舎・町民交流施設	1	◎			◎	

熊本のまちなみと建築展

アートポリス選定既存建造物選定の趣旨、建造物の特徴や歴史的経緯を記載した写真パネル等を展示しました。



選定既存建造物名称	パネル枚数	ビデオ「アートポリス1992」	備 考	選定既存建造物名称	パネル枚数	ビデオ「アートポリス1992」	備 考
くまもとアートポリス'92 選定既存建造物紹介パネル等	2			緒方家住宅	1	◎	
細川家霊廟・泰勝寺	1			境家住宅	1	◎	
泰勝寺茶室(仰松軒)	1			一の宮阿蘇神社	1		
熊本大学資料館 (旧第五高等学校本館)	1			鉄砲小路	1		
熊本大学資料館別館 (旧第五高等学校化学教室)	1			アスペクタ	1		
熊本大学工学部研究資料館 (旧熊本高等工業学校機械実験工場)	1			熊本テクノポリスセンター	1		イメージスケッチを展示
県立美術館	1		外壁タイルの一部を展示	西原村営河原団地	1		
熊本城(石垣、宇土櫓等)	1	◎		通潤橋	1		
数寄屋丸	1			霊台橋	1	◎	
第一勧業銀行熊本支店	1			三角西港	1	◎	
細川家霊廟・妙解寺	1			梅の木轟公園吊橋	1		
県営帯山第二団地	1			熊本県水産研究センター	1		模型を展示
県立東稜高校	1			東陽村営淵の本団地	1		
水前寺成趣園	1			松浜軒	1	◎	
古今伝授の間	1			祇園橋	1	◎	
熊本洋学校教師館 ジェーンズ邸(日赤記念館)	1			大江教会堂	1	◎	
熊本市水道局	1			崎津教会堂	1	◎	
木魂館	1		模型を展示	牛深市営鬼塚団地	1		模型を展示
小国町交通センター	1			球泉洞森林館	1	◎	模型を展示
小国町民体育館	1		小屋組のボールジョイントを展示	青蓮寺阿弥陀堂	1	◎	
八千代座	1	◎	模型を展示	重盤岩眼鏡橋	1	◎	
岩本橋	1			青井阿蘇神社 (楼門、本殿、幣殿、拝殿)	1		
				太田家住宅	1		
				明導寺阿弥陀堂(城泉寺)	1	◎	
				桑原家住宅	1		

世界のまちづくり展

世界各国の都市開発・まちづくりのプロジェクトの中から、アートポリスと同様に建築を核としたまちづくりを行っている国外8都市、国内3都市の事例を写真パネル、模型、スライド、ビデオ等で紹介しました。

紹介都市	まちづくり・事業の概要	展示内容
リール(フランス)	ヨーロッパ各都市とイギリスを結ぶTGVの駅を中心とした新しい都市再開発。	パネル 6枚 スライド 77枚
ニーム(フランス)	歴史的なまちなみや建造物と、最新の現代建築を積極的にマッチさせたまちづくりの具体例。	パネル 6枚 スライド 73枚 ビデオ 1本
パリ(フランス)	大規模建築プロジェクト「グラン・プロジェ」の全貌。	パネル 8枚 スライド 79枚
ベルリン(ドイツ)	公営住宅を主にした約150のプロジェクトを世界の建築家が競い合った国際建築展(IBA)。	パネル 8枚 スライド 80枚 ビデオ 1本
フランクフルト(ドイツ)	新しい建築物と、中世の街並の修復事業による文化的施設づくり。	パネル 8枚 スライド 80枚 ビデオ 1本 模型(市立エッケンハイム幼稚園)
ミュンスター(ドイツ)	歴史的な街並みの中に、全世界から集まったアーティスト等による作品を展示した国際屋外建築展と文化施設建設。	パネル 4枚 スライド 76枚 ビデオ 1本
ロッテルダム(オランダ)	市中心部に優良な住宅、事務所、商業などの複合化を行い、都市機能を復活させる再開発。	パネル 6枚 スライド 80枚 ビデオ 1本
バルセロナ(スペイン)	オリンピック競技施設建設、文化施設や交通体系の整備、ウォーターフロント開発の事例。	パネル 8枚 スライド 80枚 模型(パウラ・サンジョルディ)
富山県(日本)	県内の市町村に固有の文化を象徴する施設づくりによって、地域振興の核“まちのかお”をつくる事業。	パネル 4枚 スライド 42枚
奈良市(日本)	歴史と未来の共生をテーマに展開される1998年の世界建築博覧会と準備事業。	パネル 4枚 スライド 22枚
横浜市(日本)	日本における都市デザイン行政の先進地としての地域のまちづくりや、都市デザインの活動状況。	パネル 6枚 スライド 80枚



紹介建築物等

ユーラリール計画

ホテル棟(設計=篠原一男) ショッピングセンター(設計=ジャン・ヌーヴェル)
 リヨン信用組合棟(設計=クリスチャン・ド・ボルツァンバルク) コングレ・スポ(設計=レム・コールハース)
 ワールドトレードセンター棟(設計=クロード・ヴァスコニ)

フォスター軸(設計=ノーマン・フォスター) コロセウム改修工事(設計=ミシュラン+ゲイベル)

メディア・テック(設計=ノーマン・フォスター) ネモーザスI(設計=ジャン・ヌーヴェル)

コリス(設計=黒川紀章) 美術学校(改修設計=ジャン・ミシェル・ヴィルモット)

サッカースタジアム(設計=ヴィットリオ・グレゴッティ) 美術館(設計=ジャン・ミシェル・ヴィルモット)

テット・デファンス(設計=ヨハン・オットー・フォン・スプレケルセン+ポール・アンドリュウ)

アラブ世界研究所(設計=ジャン・ヌーヴェル+アーキテクチュア・スタジオ) グラン・ルーブル計画(設計=イオ・ミン・ペイ)

バステュー・オペラ劇場(設計=カルロス・オット) ラ・ヴィレット公園(設計=ベルナルド・チュミ)

音楽都市(設計=クリスチャン・ド・ボルツァンバルク)

オルセー美術館(設計=ACT アルシテクチュール+ガエ・アウレンティ)ほか

ベルリン博物館に隣接する建築群

(設計=磯崎新、ハンス・コルホフ、ウェルナー・クライス+ウルリッヒ・シャード+ペーター・シャード)

フリードリヒ・シュトラセ 207/208(設計=エリア・ゼンゲリス+マティアス・ザウエルブルック)

テゲル・ハーフェン・プロジェクト(設計=チャールズ・ムーア+ジョン・ルーブル+バズ・ユーデル)

ラウフ・シュトラセのハウジング・ハウス(設計=ロフ・クリエ、フランシー・ヴァレンティス+クーベルト・ヘルマ)

ベルリン科学センター(設計=ジェームズ・スターリング+マイケル・ウィルフォード)ほか

ユダヤ博物館(設計=アンテ・ヨシップ・フォン・コステラック) 市立エッケンハイム幼稚園(設計=伊東豊雄)

先史・原史博物館(設計=ヨセフ・パウル・クライフス) 近代美術館(設計=ハンス・ホライン)

ポルティコ展示バヴィリオン(設計=マリー・テレーズ・ドイッチュ+クラウド・ドイシガッカー)

ドイツ建築博物館(設計=オズワルド・ウンガース) ドイツ郵便博物館(設計=ギュンター・ペーニッシュ)

グリースハイム幼稚園(設計=ピーター・ウィルソン) イコン美術館(設計=オズワルド・ウンガース)

市立図書館(設計=ジュリア・ボールズ+ピーター・ウィルソン)

国際屋外彫刻展のオブジェ(総数約 60)

リチャード・セラ(アメリカ) ジェニー・ホルツァー(アメリカ) リチャード・アーチュヴァーガー(アメリカ)

デニス・アダムス(アメリカ) ウルリッヒ・リュクレーム(ドイツ) イサ・ゲンツェン(ドイツ) ほか

クンスト・ハル(設計=レム・コールハース) エラスムス橋(設計=ファン・ベルケル+ボス)

オランダ建築会館(設計=ヨー・クーネン) カフェ・レストラン(設計=MECANO)

ボイマンス美術館新館(設計=フーベルト・ヤン・ヘンケル)

パウラ・サン・ジョルディ(設計=磯崎新) スーパーユニット8(設計=トーレス+ラペーニャ)

オリンピック・メイン・スタジアム(設計=ヴィットリオ・グレゴッティ)

コイセローラのテレビ塔(設計=ノーマン・フォスター) 国際会議場(設計=トーレス+ラペーニャ)

パルセロナ・バヴィリオン(復元)(設計=ミース・デル・ローエ)ほか

小杉町/バス発着所(設計=ロン・ヘロン+福見靖宏/福見建築設計事務所)

滑川市/はまなす公園と展望塔(設計=トム・ヘネガン+インガ・ダグフィンスドッター+稲葉実/三四五建築研究所)

上市町/展望休憩所(設計=ピーター・ソルター+田村明久/タムラ建築設計事務所)

高岡市/駅南広場整備(設計=エンリック・ミラーレス)+山口充/富山県 建築設計監理協同組合)ほか

シティホテル(設計=アルド・ロッシ) コミュニティ住宅(設計=黒川紀章) 奈良市民ホール(設計=磯崎新)

奈良市立写真美術館(設計=黒川紀章)

横浜美術館(設計=丹下健三) パシフィコ横浜(設計=日建設計) 人形の家(設計協力=坂倉建築研究所)

ランドマーク・タワー(設計=ヒュー・スタビンス+三菱地所) 開港広場 馬車道 元町商店街 外人墓地 ほか

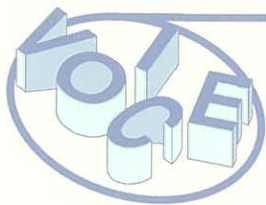
デザイン・コンペティション 入賞作品展

熊本まちなみ展、小国まちなみ展で行ったデザイン・コンペティションの趣旨を紹介するとともに入賞作品等を展示しました。

◆展示内容

1 F彫刻広場	入賞作品展示	
	ベンチ(課題:都市に浮かぶベンチ)	3点
	無人販売所(課題:田園に佇むキオスク)	5点
	実作展示	
	ベンチ	4点
1 Fギャラリー	応募作品展示	
	無人販売所(11/3~8)	17点
	ベンチ(11/10~30)	17点





●熊本県の建築に携わる若い皆さんが
んばって下さい。私の息子も建築設計の
卵で勉強中。…この会は楽しかった。又、
見せて下さい。(70才代・男性)

●もっと時間をとってくれば良かった。
ゆっくり見ればもっと為になったと思
う。今度は実物を見てまわります。
(30代・女性)

●とてもいい展覧会だった。このアート
ポリス計画をもっと世界に広めるべき
ことだと思う。(10代・男性)

●たいへん興味のある展覧会で、感心し
ました。特に、図面の展示など、他では見
れないものを見れ、うれしく思います。
たいへん参考になりました。
(40代・男性)

●私たちの感覚では考えられないよう
なまるで夢のようなもの(?)を見せて
頂き、驚き(?)の感じです。これから益々
夢多きものを期待します。(50代・女性)

●意表をついた建築物がズラリ…。面白
く、楽しい鑑賞のときを過ごさせて頂き
ました。感謝。(60代・男性)

●非常にすばらしい企画及び演出だ！
アートポリスは世界を変える、と思う。
(30代・男性)

●熊本にいてよかったと改めて思いま
した。おしゃれな建物で、みていて楽し
かった。デートコースとして取り上げて
ほしい!!。(10才代・女性)

●伊東豊雄さんのを見にいきたいです。
(20代・女性)

●今月2度分館に来ましたが、展示内容
のみならず、展示の仕方(ディスプレイ)
がとても楽しく、また勉強させられまし
た。普通、美術館では苦痛を伴うことが
多いのですが、途中でなかなかステキな
カフェに入って食事をとりながら見て
いくことは楽しいものです。建物、展示
内容、ディスプレイ、そこで働く方の心
遣い etc・・・全てが一つの流れとし
てとらえられ、なかなか他にはないもの
になっているのでは、と思いました。
(30代・女性)

●素晴らしい。熊本の建築にびっくりし
ました。熊本の未来が楽しみです。
(60代・女性)



展览会

アートポリス展览会を1ヶ月弱の会期中に8,000人余りの方々に見ていただき、「くまもとアートポリス」に対する多くの生の声を聞かせていただきました。

まず、本展览会では展示物を見ていただくだけではなく、器である県立美術館分館は実物展示品として徹しなければなりませんでしたが、多くの人々に県立美術館分館の作品としての素晴らしさを絶賛していただきました。しかし、全館を使った初めてのイベントでもあり、使用するにあたっての制約も多く、十分な案内ができなかったことを誠に申し訳なく思っています。

4階の「くまもとアートポリス展」では、評論家の多木浩二氏が「これは素晴らしい。東京でも見たことがない。このまま各地で開催できないか。」とおっしゃっていただき、熊本でこのイベントを手掛けられたことを誇りに思い、これは熊本の財産となったと感じました。また、一般の方々が見られて「あっ、北署だ。」「こんなものもあるんだ。」の声が聞こえる中、多くの人が住宅に注目されていたことが印象に残りました。

1、2階の「世界のまちづくり展」では、国内外11都市のまちづくりを紹介しましたが、それだけ

ではなく、海外での日本の建築家の活躍を紹介できたことも有意義なことでした。

「くまもとアートポリス」の理解度の違い、感性の違いによって、十分な価値観を見いだせなかった方もいらっしゃったようですが、この展览会を見て、「熊本の街がどうあるべきか」を考えるきっかけになったことは、展览会の成果としては十分であったと思います。また、それ以上に「両親に連れられて来た小学生」、「団体で来た中学生」、「友人と来た高校生」、「卒業設計のために設計図展で勉強していた大学生」ら、あすの熊本のまちづくりの一翼を担うであろう若者たちが何らかの興味を持ち、刺激を受けたことは、この展览会の成果として評価できるものでした。

重松 隆(くまもとアートポリス'92実行委員会展示部会)

シンポジウム

くまもとアートポリスがめざす建築を核としたまちづくりについて考察を目的として2つのシンポジウムを開催しました。

一つは、11月5日～7日の3日間にわたって行った「都市デザインサミット」であり、「くまもとアートポリス'92開会式」に引き続き、くまもとアートポリスと同様の考えで都市開発・まちづくりを進めている先進地諸都市、国外8地区、国内3地区から建築家、行政担当者等とさらには、くまもとアートポリス参加建築家を含めた建築・行政・まちづくりの関係者を招待した国際会議として、3ヶ国語同時通訳によって発表・討論を行いました。

第一日目は、開会式に続いて、コミッショナー磯崎新氏の講演の後、各都市における都市デザインへの取り組みの現状を、スライド等を使用して議論の前段となるプレゼンテーションを行いました。

二日目は、「都市と行政」、「住宅と生活」、「建築と文化」をテーマに3つの分科会を開催しました。三日目は、総括として各分科会の報告がそれぞれの座長から行われ、その後全体総括講演が行

われました。

11月30日には一連のイベントの締めくくりとして閉会式を兼ねて「アートポリスフォーラム」を開催しました。

各イベントの実施状況報告をそれぞれの担当部会長が行った後、アートポリス参加市町村の代表によって、参加プロジェクトを核にした地域づくりについてスライドを交えての事例報告と討論を行い、その後、くまもとアートポリスの、いわば第二期への出発点として「くまもとアートポリス'92」の閉会式を行いました。

都市デザインサミット

11月5日(木)
10:30~21:00

10:30~12:00

◆くまもとアートポリス'92 開会式 <会場：県立劇場演劇ホール 参加者数：800人>

- ◎開会宣言 福島譲二（熊本県知事）
- ◎来賓挨拶 浅野 宏（建設省住宅局市街地建築課長・三井康壽建設省住宅局長代理）
古閑三博（熊本県議会議長）
御厨一熊（熊本市助役・田尻靖幹熊本市長代理）

◆都市デザインサミット

- ◎ビデオプレゼンテーション「くまもとアートポリス」
- ◎基調講演 磯崎 新（くまもとアートポリスコミッショナー）

11月6日(金)
10:00~17:00

◆第一分科会 <会場：県立劇場演劇ホール 参加者数：210人>

- ◎テーマ 一都市と行政一
- ◎座 長 磯崎 新
- ◎パネリスト
 - ・ヘンドリカ・エグベルディナ・バックル（ロッテルダム市都市計画・住宅局部長）
 - ・オリオール・ボイガス（バルセロナ市文化局長）
 - ・ロランド・ブルガルド（フランクフルト市建設局長）
 - ・マリー・エレヌ・コンタール（フランス文化省／グラン・プロジェ担当大臣官房室）
 - ・藤江秀一（とやままちのかおづくり事業プロデューサー）
 - ・黒川紀章（世界建築博覧会奈良プロデューサー）
 - ・ヨゼフ・マリア・リントホルスト
（ロッテルダム市都市計画・経済開発委員長）
 - ・小澤恵一（横浜市都市計画局長）
 - ・澤田光英（財団法人日本建築センター理事長）
 - ・ニコラ・スーリエ
（ニーム市都市計画事務所首席建築家）
 - ・石島和光（熊本県土木部次長）



11月7日(土)
10:00~12:00

◆都市デザインサミット閉会式 <会場：メルパルクホール 参加者数：350人>

- ◎各分科会報告 磯崎 新（第一分科会座長）
植田 実（第二分科会座長）
多木浩二（第三分科会座長）

〈入場料：5日・6日 一般8000円 学生6000円／7日 入場無料〉

13:00~18:30

◎招待都市プレゼンテーション ―都市再開発の新しい手法―

座 長 石島和光（熊本県土木部次長）

発表都市（フランス）リール ニーム パリ

（ドイツ）フランクフルト ミュンスター

（オランダ）ロッテルダム

（スペイン）バルセロナ（日本）富山県 横浜市

19:00~21:00

◆懇親会 <会場：県立劇場大会議室 参加者数：200人 会費：5000円>



◆第二分科会 <会場：県立劇場大会議室 参加者数：250人>

◎テーマ ―住宅と生活―

◎座 長 植田 実（住まいの図書館出版局編集長）

◎パネリスト

- ・延藤安弘（熊本大学教授）
- ・早川邦彦（熊本市営新地団地A）（アートポリス参加建築家）
- ・小宮山 昭（県営新渡鹿団地）（ 〃 ）
- ・松永安光（熊本市営託麻団地）（ 〃 ）
- ・元倉眞琴（県営竜蛇平団地）（ 〃 ）
- ・新納至門（県営常山A団地）（ 〃 ）
- ・西岡 弘（熊本市営新地団地D）（ 〃 ）
- ・坂本一成（熊本市営託麻団地）（ 〃 ）
- ・妹島和世（再春館レディースレジデンス）（ 〃 ）
- ・重村 力（神戸大学講師）
- ・富永 譲（熊本市営新地団地C）（アートポリス参加建築家）
- ・上田憲二郎（熊本市営新地団地E）（ 〃 ）
- ・山本理顕（県営保田窪第一団地）（ 〃 ）
- ・磯田桂史（熊本県建築課長）

◆第三分科会 <会場：メルパルクホール 参加者数：390人>

◎テーマ ―建築と文化―

◎座 長 多木浩二（美術評論家）

◎パネリスト

- ・安藤忠雄（県立装飾古墳館）（アートポリス参加建築家）
- ・トム・ヘネガン（草地畜産研究所畜舎）（ 〃 ）
- ・石井和紘（清和文楽館）（ 〃 ）
- ・伊東豊雄（八代市立博物館未来の森ミュージアム）（ 〃 ）
- ・桂 英昭（湯前まんが美術館・公民館）（ 〃 ）
- ・レム・コールハース（建築家）
- ・ホセ・アントニオ・マルチネス・ラペーニャ（県立美術館分館）
（アートポリス参加建築家）
- ・篠原一男（熊本北警察署）（ 〃 ）
- ・エリアス・トーレス（県立美術館分館）（ 〃 ）
- ・ピーター・ウィルソン（建築家）

- ◎総括講演 八束はじめ
（くまもとアートポリスコミッショナー事務局ディレクター）
- ◎アドバイザー挨拶 堀内清治（くまもとアートポリスアドバイザー）
- ◎閉会挨拶 渡戸健介（熊本県土木部長）



基調講演

—行政から文化へ—「くまもとアートポリス」の現在と未来

くまもとアートポリスコミSSIONナー 磯崎 新



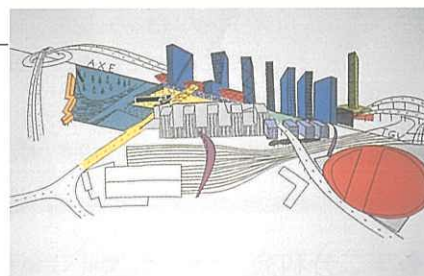
招待都市プレゼンテーション

リール

レム・コールハース (建築家)

リール市中心地区再開発・マスタープランナー

TGVの延長によりロンドン、パリ、ブリュッセルといった国際的な三角形の中心都市となるリール。ユーラリールは新駅を中心として国際会議場、ホテル、銀行、ショッピングセンターを核とする大規模な都市開発である。



ニーム

ニコラ・スーリエ (建築家)

ニーム都市計画事務所首席建築家

ジャン・ブスケ市長が1985年にローマ時代からの歴史的な建造物を現代に共存させるニーム市再生計画を打ち出した。国際的な建築家、デザイナーの登用で建築や都市自体を文化と考える。



パリ

マリー・エレヌ・コンタール (建築家)

フランス文化省／グラン・プロジェ担当大臣官房室

革命200年記念「大統領プロジェクト」事業に始まるグラン・プロジェ。都市景観を世界にアピールするため、新オペラ座、大ルーブル計画をはじめ数々のプロジェクトを国際コンペとした。



フランクフルト

ロランド・ブルガルド (建築家)

フランクフルト市建設局長

国際的な金融資本受け入れのためのバンケン・フィアテル、国際見本市会場といった大きなプロジェクトとともに20件を超える博物館、美術館などの改修、新築を手掛かりとし、点から線へ、面への拡がりの中で文化的な雰囲気の歩いて楽しめる街をつくった。

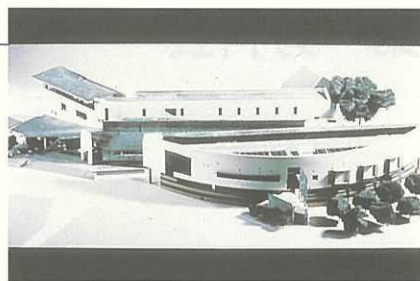


ミュンスター

ピーター・ウィルソン(建築家)

1995年の市制1200年記念事業として中世からのカテドラルの脇に市立図書館をつくっている。これは次の世代を担う子供達の文化的教育の場となる未来のカテドラルである。

また、1987年に行った彫刻展は、世界中の著名なアーティストへ街中に屋外彫刻を依頼し永久的に設置した。それを市民のオリエンテーリングのポイントとした。



ロッテルダム

ヘンドリカ・エグベルディナ・バッケル(建築家)

ロッテルダム市都市計画・住宅局部長

「コープ・ファン・ズイド」計画は国際港であるウィルヘルム埠頭に、住宅、オフィス、レクリエーション地域などを約10年後を目指して再開発するものである。



バルセロナ

オリオール・ボイガス(建築家・工学博士)

バルセロナ市文化局長

1992年、オリンピック開催に合わせて、ホテル、国際会議場、空港、そして市民の日常的に親しまれる広場、街路の整備など総合的な都市整備計画を行った。



富山県

藤江秀一(建築家)

富山県まちのかおづくり事業・プロデューサー

県内14の市町村にその街の文化の象徴となる「まちのかお」を作り、それらを全て海外の建築家に依頼することにより、新しい「地域文化」を見いだしていくという試み。



横浜市

小澤恵一

横浜市都市計画局長

港湾地区再開発による新都心部「みなとみらい21」では国際会議場、ホテル、美術館をつくった。また、みなとヨコハマならではの市内の様々な外路空間整備、歴史的建造物の保存、改修などを「都市デザイン」という視点から行ってきた。



第一分科会

テーマ 都市と行政

座長 磯崎 新



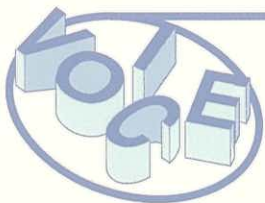
◆座長アピール要旨

1 現在は、東西構造の解消など、社会体制の急激な変化の時代であって、旧来の計画の手法や評価基準がそのままでは有効でなくなりつつある。

2 体制の如何に関わらず、旧来のシステムにおいては、合理的で計量化が可能であるようなカテゴリーによってことが判断されてきた。しかし、都市計画が、本来、集団で住む都市生活から生ずる軋轢を調整することを目指す以上、どう合意してもそれは一方の側への不自由を生むことになることを見逃してはならない。1で述べたような問題点とは、このような行き方の限界であって、その克服のためには上記のカテゴリーとは別の基準を導入する必要がある。

3 この別の基準とは、一言でいえば文化的基準である。都市計画を文化的なレベルにのせていくことによってしか新たな地平は開かれれないのではないか？

4 しかし、文化は、慣習や価値、美意識、趣味など多岐にわたる基準を抱え込むだけに、都市計画のように市民の生活に関わる事業にもち込まれた場合、上記の諸点の裏返しとして、当然さまざな議論を呼ぶだろうし、簡単に一致点や同意を形成し得るわけではない。新たな対立がもち込まれる可能性は十分ある。この点には十分な留意や覚悟が必要であろう。



自ら訪れたパリやフランクフルト、国内では東京や横浜では、一旅行者でさえも都市の変貌のダイナミックさを感じる。その裏で、何のために、どんなシステムで、誰が仕掛けているのか常に興味があった。

パリではフランス革命 200 年を記念しての改造計画「グラン・プロジェ」を推進している。この日パネリストとして出席したのは、建築家でありながら文化省のグラン・プロジェ担当大臣官房室勤務のマリー・エレヌ・コンタール女史であった。大ルーブル計画、新凱旋門(グラン・アルシェ)、大蔵省新庁舎、アラブ世界研究所、科学産業博物館、音楽都市、オルセー美術館、ラ・ヴィレット公園、新オペラ座……等々。いずれも世界に通用する質の高い建築である。女史の説明によれば、国できちんと方針を決め、それにふさわしい国際的建築家に依頼したり、国際コンペによって設計者を選んでいる、とのことであったが、実際にはかなり厳しいシステムとプロセスで運営されていることを伺わせるに十分であった。

国内では「MM21」を推進している横浜が好例であろう。近代文明をいち早く取り入れて発展してきた港町にふさわしく、まちづくりにおいても常にトップラ

ンナーとして走りつづけている。それに対応するための行政機構も弾力的に改変しているとのこと。完成間近の「ランドマーク・タワー」は正にそのシンボラタラんとしているように見える。発表された他都市もそれぞれに苦勞しながらも、特色を出した都市づくりに取り組んでいる状況を知ることができた。

国内外の事例を見聞するにつけ、アートポリス事業は文化遺産としての建物を後世に残すという趣旨だけでなく、都市づくり、まちづくりを推進していく上で行政側の改革への第一歩ではないかと気づく。従来の、ともすれば膠着したシステムに風穴を明けたという意義は大きい。対象プロジェクトの完成によってもたらされた地域への波及効果は計り知れないであろうし、これまで活性化のために様々な模索を続けてきた地方自治体にとっては極めてインパクトの強いイベントであったといえる。

中川誠之(中川誠之建築設計事務所)

第二分科会

テーマ 住宅と生活

座長 植田 実



◆座長アピール要旨

1 KAP の集合住宅の特徴とは、既成の解決とは異なった解答を求めた人選にあったと考える。つまり、既成の解決を問題視したことから出発している、と。

2 集合住宅に関しては、住み替えなどの選択性を前提とした多様性を前提として考えるか(これは賃貸に結びつく)、あるいは等質、等量なものの供給を前提にするのかという択一的な選択が生じる。

3 またこの択一性(非両立性)は、住み手と計画者、特殊と普遍、土着(日本の慣習)と近代(西欧の手法)というようにパラダイムがずれた形で介在してきている。

4 現代の集合住宅には、こうした多様で矛盾した要素が横断的に現れている。



日頃、出版物でしか接する事のできない建築家を、目の前で大勢、しかもディスカッション型式の分科会に参加できたことは、私にとって大きな出来事でした。また、建物群も興味深い物ばかりでした。熊本に行けば、こんなに“おもしろい”建物が、一杯ある。私の様な設計を仕事している者にとっては、こんな有りがたいところはありません。

ただ、私が以前より疑問に思っていたことが、現地で再び膨れ上がり、KAP'92から帰ってからも、心のどこかにずっと残っています。

—これでいいのだろうか？—

特に第二分科会のテーマ[住宅と生活]では、団地と言う現にその建物で生活をしている(生活をしなければならない)人々がいるという事実、太陽が昇り、季節の風が吹き、雨が降り、慌しい生活に追われている人々数百人の生活ゾーンに毎日の様に大型バスで来る見学者(私もその一人ですが)、建物のコスト面や維持管理面だけでなく、現に住んでいる人々、周辺の人々は満足しているのだろうか、という問題点。

各団地を見学して、すばらしい所も多いのですが—私なら此に住みたくない！—と言う所もあります。KAPは、はたして団地まで含んでしまっても良かったんだ

ろうか。

KAPが、良し悪しはもっと後の世の人に議論を任せるべき問題であるという意見は、よく耳にします。だが第二分科会だけは、そんな悠長なことは言っていられないのではないのでしょうか。建築に関する人だけの自己満足では済まない問題だと思います。

地域住民にやさしいKAPで、大きく発展することを願います。

最後に、ボランティアでお世話になった皆さんに、深く感謝いたします。

齊藤 肇(倉敷市 久本設計事務所)

第三分科会

テーマ 建築と文化

座長 多木浩二



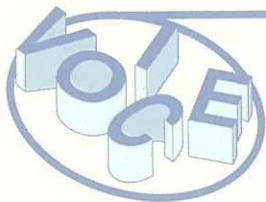
◆座長アピール要旨

1 現代社会においては、近代建築運動が前提にしていたような単純な社会と建築の関係が成り立たないという認識が深まっている。しかし、この関係を見極めることは建築の将来を考えていく上で欠かせない作業である。

2 その点で、KAP は建築が社会の中に出現する形について、ひとつの興味深いケースを形作った。それは、広い領域に渡る社会的な文化という次元を背景に、どのようにして建築がつくられ、また提示されるかということを多くの具体的な例で示した点で興味深いプログラムだった。

3 この関係を見据えていくことは、建築を今日文化として成立させているものへの視点を確立し、建築が社会に対してより積極的な形で開いていく回路を成り立たせるのではないか？





最も話を聞きたいと思っていた安藤忠雄氏の名前が一番左にあったので前列の左よりに席を取ったが、パネリストの顔ぶれとは裏腹に想像していたほどの混雑は見られず些か寂しい思いがした。安藤氏の県立装飾古墳館には、車を降りてから木洩れ日の中を紫陽花に囲まれて一段一段階段を登っていく時の解放感と広々とした大地を目の当たりにした時の解放感という世知辛く町中に建てられた建物には無い魅力があった。夏の青空が一面に広がる7月に見学してしまった私達にとってはそこから更に建物へ向かう緩やかな坂は少々きついものだったが、大きな打ち放しの壁の向こうから聞こえる水の音に吸い込まれるように自然に内側へと入っていった。その安藤氏の口から出た言葉が「展示物、展示方法、展示場所は既に決定されていたのでランドスケープだけが唯一の味方だった」というのは頷ける半面、意外だった。それは『くまもとアートポリス』に対して、「なんでもあり」というイメージをいつの間にか持ち始めていたからに違いない。

あの伊東豊雄氏も篠原氏の熊本北警察署や山本氏の県営保田窪第一団地を見て思い切って設計して良いんだと思ったと言うし、建築家が様々な制約の中で

「文化的資産の創造」を強いられていたのかと気の毒に思えた。公共建築とはそんなに遠慮がちなものだろうか。とすると、一体誰に遠慮してしまうのか。

羨ましいことに、この短期間に次々と参加プロジェクトが完成していくのを熊本市民は祭りの様に楽しんでいるらしい。全ての参加プロジェクトが全員から興味を持たれる筈も無く必ずしも好評である筈も無い。しかし、決して大人しくならずにもっと積極的に市民を巻き込んでプロジェクトを推進して欲しい。もともと文化的な建物などある訳ないし、それが文化的な資産であるかどうかはもっと後の世の人に議論を任せるべき問題だろう。

田辺 薫(大分市 オリーブの会)



都市デザインサミット

くまもとアートポリス第一期の最後のメイン・イベントの一つであった国際シンポジウム、「都市デザインサミット」は、フランス、ドイツ、オランダ、スペインなどからのゲストを含め11月5日から7日まで3日にわたって行われた。初日は熊本も含めてゲスト諸都市の事業のプレゼンテーションが行われ、二日目は3つに別れての分科会、最終日は分科会の各座長からの報告を含めた総括という手順である。各都市のプレゼンテーションは、同時期に県立美術館分館で開催された展覧会とも重なるものだが、それぞれの事業の背景や哲学、手法なども含めての説明がなされ、アートポリスとの共通点や相違点が浮き彫りにされた。これらの事業は公共主導ではあるが、ものによっては民間の事業をかなり導入したりというようなものもある。しかし、その場合であっても、環境や景観といった都市の文化的資質に寄与する部分のリードは公共が取るべきだという立場は共通している。敢えていえば、それは公共が果たすべき責任であり、ヴィジョンなのである。招待された都市や事業は規模こそまちまちではあるが、このようなヴィジョンを要することにおいては、規模はさほど大きな違いを生み出すわけではない。

これらの問題は二日目の第一分科会にも引き継

がれたが、このような事業には長い年が必要であり、一時的な事柄で右往左往するよりも、腰をすえてかかるべきものだという印象が強かった。住宅を取り上げた第二分科会では、現在、住ということに関して容易に単一の合意をもった解が見つからない、という現実から出発して、現在の公営住宅の制度的な問題点や共用スペースの考え方、住民と設計者との関係などが、極めて真摯に論じられた。第三分科会は建築と文化というようなことを中心に、現代都市や社会、そして公共という概念などを中心に議論が行われた。最も議論が分かれるテーマであり、また西欧と日本の違いということもあり、必ずしも議論が100%かみ合ったわけではないが、公共的な場で自らの立脚点を説明するというような行為には、ヨーロッパの建築家たちの方が基本的な姿勢ができ上がっているという感もたれた。日本の建築家はやや個人的な言語に走る傾向があり、これは設計自体にも反映するところかもしれないが、それはそれとして日本の社会の特性でもあると思われた。総じて充実した議論が展開され、アートポリスの将来にも資するところが多かったし、これでアートポリスは国際的な地図に立派に載ったのではないだろうか。

八東はじめ(くまもとアートポリスコミッショナー事務局ディレクター)

[illegible]

アートポリスフォーラム

平成4年11月30日(月) 15:00~17:30

<会場: 県立劇場演劇ホール>

<参加者数: 900人>

◆開 会

◆くまもとアートポリス'92 報告

くまもとアートポリス'92実行委員会専門部会

上田憲二郎(見学部会長)

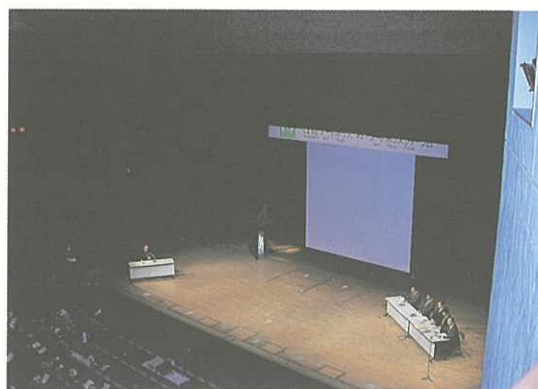
岩永 眞(シンポ部会長)

近田一夫(展示部会長)

桂 英昭(まちなみ部会長)

中川 久(関連事業部会長)

中川誠之(広報記録部会長)



◆市町村報告 「地域からの発信」

コーディネーター 桂 英昭(熊本大学講師)

ゲストスピーカー 鶴田幸三(熊本市)

井本恵英(八代市)

谷口 強(玉名市)

井 道行(産山村)

兼瀬哲治(清和村)

本村 等(芦北町)

浦田伸一(津奈木町)

吉村喜代己(湯前町)

渡辺政一(松島町)

濱崎俊雄(河浦町)



◆特別講演

「アートポリスとまちづくり」

沖田嘉典(八代市長)

◆挨拶

堀内清治(くまもとアートポリス'92実行委員会副会長)

◆閉会宣言

福島譲二(くまもとアートポリス'92実行委員会会長)



アートポリス事業により行政と民間が一体となって心のゆとりと豊かさを求めた施設の建設に取り組み、県内各地に今までの建築と違った全国的にも誇れる施設が相次いで誕生しました。

事業を推進する中ではいろいろアートポリスについて論議をされた経緯はありますが、フォーラムで各市町村からスライドにより施設の紹介がなされましたが、報告者全員が“我が町の作品”について自信と愛着をもって紹介をされておりました。

自治体は、行政主導のまちづくりのエネルギーをいかに地域住民にバトンタッチし住民と共同したまちづくりに転換

していくかが大きな課題でありましたが、各地域のアートポリスによるシンボル建造物の建築により“笛吹けど踊らず”のまちづくりから住民の自立の意識をくすぐり、地域のイメージや住民意識が変わり少しずつ自治体と住民が共に踊るまちづくりがなされつつあることを強く感じました。

それから「くまもとアートポリス'92」で国内でも著名なジャーナリストへの呼び掛けやマスコミ等で幅広く全国に紹介していただきPR面にしても一自治体では財政的にも限度があり、非常に感謝をしているところであります。

谷口 強(玉名市秘書企画課長)



アートポリスフォーラム

くまもと国際建築展「くまもとアートポリス'92」の最後を締めくくる「アートポリスフォーラム」は夏から熊本県全域で繰り広げられてきた一連のイベント、シンポジウム、展覧会、出版などの成果と、くまもとアートポリスプロジェクトの建築を実際に企画し、使う各市町村の担当者からの報告をするもので、いわばアートポリス事業の総決算でもあった。

この間、くまもとアートポリスを見学に、いや参加するために熊本を訪れた人、熊本で実際にこれらの活動に参加した人を数えれば、のべ数十万を越えるだろう。これらの各事業を担当した方々の事業報告には、東京や大阪や横浜で開催された都市サミットや万国博覧会といった大イベントにはない手作りの温かみがあったのである。

また、アートポリスプロジェクトの建設と運営を実際に行う各市町村の発表には、あちこちで建築が出来たことによって、さまざまな文化的(騒動も含めて?)広がりを利用者、住民の中で起こり、改めて建築のアイディアやデザインの可能性と力を感じさせられた。これこそアートポリスの特徴というべきものであり、それぞれ

のプロジェクトが地域に根づき、愛され、核となつてまちおこしにつながっている息吹を感じた。これは、特別講演を行った八代市長の沖田氏からも感じられた。

くまもとアートポリスアドバイザーであり、アートポリス'92の実行委員会副会長の堀内清治教授は、挨拶の中で「機能、構造、デザインが一体となつてはじめて建築と呼べる。建築を本来の王道に戻すことがアートポリスの目的である。」と説明した。しかし、これもアートポリスの役目の半分であり、周囲に良い環境を及ぼし、豊かなふるさとづくりの支援をしてゆくことこそ、二期アートポリスの目標ではないだろうかと提案した。

最後に演壇に立った福島知事は、くまもとアートポリス事業が県外からもたくさんの参加者を得て、熊本を強く印象づけたこと、そして、何より文化的、個性的な地域の創造には長い間継続して推進することが大事であると、くまもとアートポリス二期へ向けての抱負を語り、言葉を結んだ。

ローマは一日にしてならずの格言を引くまでもなく、まちづくりの事業は時間がかかる。その意

味でユニークさによって、名をあげた「くまもと
アートポリス」はまだその入口に立ったばかり
だ。ここから先はまだ長い。より文化的で、広く
市民の声を取り込んだ戦略が画策されなければ
ならない。その第一歩として、今回の一連の事業
は、先例に耳を傾けようということでも大きな
成果をあげたといえよう。

手作りのまちづくりを進めてきた小学生もお年
寄りも、遠くパリやバルセロナからやってきた
建築家や都市行政者や市長も、アートポリスと
いう言葉で楽しく語りあえた。こんな実感と感
動が、このフォーラムを最後にして、すべての日
程を終了した参加者の胸にこみあげてくるのだっ
た。

鈴木 明(くまもとアートポリスコミッショナー事務局
建築・都市ワークショップ)

まちなみ展

くまもとアートポリスは、ただ単に有名建築家・デザイナーによる建築作品を創り出すことにその目的があるわけではありません。建築、環境デザインに対する関心を高め「文化」をベースにした地域の活性化をめざしています。見学会、シンポジウム、展覧会が建築関係者を主たる対象に前述のような目的で実施されたのに対し、まちなみ展は、それらを補完・充填し、くまもとアートポリスの目的が少しでも達成できるように計画されました。

まちなみ展の目的は大きく分けると3つあります。一つは、そのプログラムを短期間に練り上げるのではなく、企画立案・準備作業を地元の様々な分野の皆さんと一緒に進めることにより、建築を中心とした次の時代のまちづくりを進めて行く方向性を探り、まちづくりの新たなネットワークを作ることです。2つ目は、ビジュアルで参加しやすい企画にすることで広く県民の皆様にも本構想のご理解をいただくと同時に、「くまもとアートポリス'92」への直接的な参加を促すことです。3つ目は、県下全域で展開されているアートポリスプロジェクトに関する発表・紹介の場

を熊本市だけでなく、県南、県北でも行うことです。

そのため、このまちなみ展では、住民、行政、様々な分野の専門家の協力による地域的な計画、特に住民を中心とした広がりのあるイベントを目指し、1年前から準備を始めました。また、会場は、まちづくり活動状況や県外への知名度、イベントの可能性等を考慮し、県南は八代市、県央は熊本市、県北は小国町といたしました。

見学会、シンポジウム、展覧会をコンクリートの砂利とするならば、まちなみ展はそれを埋める砂だと思います。さらに、様々な波及効果というセメントペースト、歴史という積み重ねの鉄筋とそれらを支える多くのスタッフという型枠があって初めて「くまもとアートポリス」という後世に残し得る鉄筋コンクリートが完成するのだと考えています。